

平成30年度

入学者選抜要項



平成29年6月
宮崎大学

宮崎大学の教育理念とアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

1. 人間性の教育

- ・高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。
- ・生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。

2. 社会性・国際性の教育

- ・社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する。
- ・柔軟で論理的な思考力を育成するとともに、日本語による記述・発表の能力や外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

3. 専門性の教育

- ・それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求及び解決能力、自発的に学習する能力を育成する。
- ・新たな知の創造につながる専門教育を実施し、総合的判断力を育成する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入・選抜の方針）

宮崎大学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）に掲げた、社会の発展に積極的に貢献する人材の養成を目指しています。そのため、以下の「求める学生像」に示す、知識・技能、思考力、及び意欲を持った人を国内外から積極的に受け入れます。

【求める学生像】

1. 本学の教育理念に共感し、入学後の学修に充分対応できる基礎的な知識・技能を有する人
2. 身に付けた知識・技能を応用して問題を解決する上で必要となる思考力を有する人
3. 身に付けた知識・技能及び思考力を地域社会や国際社会において自ら積極的に活用し、その発展に貢献する意欲を持った人

【入学者選抜の基本方針】

1. 求める学生像に沿って、多様な入試方法により多面的・総合的に選抜する。
2. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜する。

宮崎大学ではこのような教育理念を各学部、学科、課程において達成するために、それぞれアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を掲げています。

したがって、本学に入学を希望する人は、基礎教育及び学部専門教育の内容及各学部、学科、課程のアドミッション・ポリシーを十分に理解した上で志願してください。

目 次

I. 学部のアドミッション・ポリシー

1. 教育学部	1
2. 医学部	4
3. 工学部	5
4. 農学部	9
5. 地域資源創成学部	13

II. 入学者選抜の概要

1. 入学者選抜実施日程	14
2. 入学定員（募集人員）	16
3. 入学者選抜方法等	
(1) 一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試，AO入試	17
(2) 推薦入試，帰国子女入試，社会人入試，私費外国人留学生入試	19

III. 一般入試

1. 出願資格	20
2. 入学者選抜方法等	
(1) 入学者選抜の実施教科・科目等	20
① 教育学部	21
② 医学部	23
③ 工学部	24
④ 農学部	25
⑤ 地域資源創成学部	27
3. 個別学力検査（英語）の免除について（工学部）	28
4. 個別学力検査（英語）の加点について（地域資源創成学部）	28
5. 個別学力検査会場について	28
6. 一般入試（前・後期日程）の入学試験問題について	28

IV. 推薦入試

1. 各学部・学科課程（コース・専攻）の募集人員・出願要件・選抜方法等	
・ 教育学部	29
・ 医学部	34
・ 工学部	36
・ 農学部	38
・ 地域資源創成学部	43
2. 各学部・学科課程（コース・専攻）の配点	44

V. AO入試

1. 募集人員・出願要件・選抜方法等	45
2. 各教科の定める個別審査等の内容	46
3. 配点	46

VI. グローバル人材育成入試

VII. 帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試

1. 帰国子女入試	49
2. 社会人入試	50
3. 私費外国人留学生入試	51

VIII. 障害等のある入学志願者の事前相談

IX. 学生募集要項の発表及び請求方法

X. 卒業後の進路・資格等

1. 教育学部	55
2. 医学部	56
3. 工学部	57
4. 農学部	58
5. 地域資源創成学部	60

XI. 統計資料

I. 学部のアドミッション・ポリシー

1. 教育学部

(1) 課程・コースのアドミッション・ポリシー

課程・コース		課程・コースのアドミッション・ポリシー
学 校 教 育 課 程	小 中 一 貫 教 育 コ ー ス	小中一貫教育コースでは、児童・生徒の長期にわたる発達過程を見通す見識、児童・生徒への深い理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目標としています。 1. 求める学生像 小中一貫教育コースでは、小学校・中学校・小中一貫校の教員等を目指す教職への意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、教育課題を解決するために必要な思考力(以下、「思考力」)と児童・生徒への適確な指導に資する表現力(以下、「表現力」)と学校現場で生きる協調性(以下、「協調性」)をもち、それらをしっかりと身につけるべく一層の努力を怠らない人材を求めています。 2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試(前期日程・後期日程) 高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」を総合的に判断します。 2-1) 推薦入試(小学校主免専攻) 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を課した上で、面接、推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では教職への意欲、「協調性」について評価します。 推薦書、調査書、志望理由書では教職への意欲、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、「協調性」について評価します。 2-2) 推薦入試(中学校主免専攻、専門学科枠) 高等学校専門学科等での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を課さないかわりに、面接、小論文、推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では教職への意欲、「知識・技能」、「協調性」について評価します。 小論文では教職への意欲、「思考力」、「表現力」について評価します。 推薦書、調査書、志望理由書では教職への意欲、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、「協調性」について評価します。 3) A0 入試(中学校主免専攻) 得意とする教科を有し、入学後もその教科を専修とすることを希望する者に対し、大学入試センター試験を課した上で、面接、各教科の定める個別審査、自己推薦書、志望理由書、実技・活動等に関する調書によって多様な能力を総合的に判断します。 大学入試センター試験では「知識・技能」について評価します。 面接、自己推薦書、志望理由書及び実技・活動等に関する調書では教職への意欲、「知識・技能」、「思考力」「表現力」、「協調性」について評価します。 各教科の定める個別審査では、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、「協調性」について評価します。 4) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。 5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、小論文、面接によって「知識・技能」、「思考力」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。 3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎学力を十分に身につけると同時に、「協調性」など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。
		教職実践基礎コースでは、幼児期から青年期にわたる長期の発達過程を見通した上で、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校に共通する教職に関する高い専門性を持ち、現代の教育課題に多角的に対応できる教員の養成を目標としています。 1. 求める学生像 教職実践基礎コースでは幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校における教育に対して熱意を持って取り組み、教科全般に関わる基礎学力、また、得意とする分野の学力や技能(以下、「知識・技能」)を有し、これらを教育実践に活用しようとする教職への意欲を持っている人、現代の教育課題に対応するために、幅広い学問や文化を意欲的に学び、広い視野を身につけ、それを幼児教育・初等教育・中学校教育・小中一貫教育に生かす思考力・表現力(以下、「思考力・表現力」)を持っている人、また、学び続ける喜びを幼児・児童・生徒と共有したいと考え、宮崎県をはじめとする地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる協調性(以下、「協調性」)を持っている人を求めています。

課程・コース		課程・コースのアドミSSION・ポリシー	
教職実践基礎コース		2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程） 高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、「知識・技能」、「思考力」、「表現力」を総合的に判断します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接、小論文及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）によって、宮崎県の教員をめざし、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる意欲と、現代の教育課題に対応するために他者と協力して課題解決しようする意欲を持つ人を受け入れるために、多様な能力を総合的に判断します。 面接では「協調性」、教職への意欲について評価します。 小論文では「思考力」、「表現力」について評価します。 推薦書・調査書では「知識・技能」、「思考力」、「協調性」、教職への意欲について評価します。 志望理由書では「表現力」、教職への意欲について評価します。 3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって「思考力」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。 4) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、小論文、面接によって「思考力」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。	
		3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎学力を十分に身につけると同時に、「思考力」、「表現力」、「協調性」など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。	
学校教育課程	子ども理解専攻	子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目的としています。	
		1. 求める学生像 子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期の子どもへの教育に対する意欲にあふれ、（教職に必要なたしか知識・技能（以下、「知識・技能」））について研鑽を積み、（目標に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・主体性（以下、「思考力・主体性」））と（児童・生徒への適確な指導に資する表現力（以下、「表現力」））と（学校現場で子どもと保護者と信頼関係を築き、同僚と協力して問題に取り組んでいける対人関係能力（以下、「協調性」））を身につけるための努力を怠らない人材を求めています。	
		2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程） 高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入試センター試験、個別学力検査、面接によって、「知識・技能」、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を総合的に判断します。 大学入試センター試験と個別学力検査では、「知識・技能」、「思考力」について評価します。 面接では、「知識・技能」、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲について評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を課した上で、面接、推薦書・調査書・志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では「思考力・主体性」、「協調性」、「表現力」、教職への意欲について評価します。 推薦書・調査書では「知識・技能」、教職への意欲について評価します。 志望理由書では「表現力」、教職への意欲について評価します。 3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。 4) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、小論文、面接によって「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」、教職への意欲を評価します。	
		3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎学力を十分身につけておくことが望まれます。また、「思考力・主体性」、「協調性」など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人コミュニケーション能力を身につけておくことが望まれます。	
	特別支援教育専攻	特別支援教育専攻では、障害のある児童・生徒それぞれの発達や特徴を捉える見識と深い児童理解力を持って初等教育を施すことができ、その上で障害に基づく種々の課題や困難を改善または克服するのに必要な知識、技能、態度及び習慣を養うための指導ができる特別支援学校教員の養成を目的としています。	
		1. 求める学生像 特別支援教育専攻では「特別支援教育に対して意欲（以下、「特別支援教育への意欲」）」を持って取り組み、「特別支援教育に関する学修に十分対応できる基礎学力や基礎技能（以下、「知識・技能」）」を有し、「目標達成に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）」、	

課程・コース		課程・コースのアドミッション・ポリシー	
学 校 教 育 課 程	発 達 支 援 教 育 コ ー ス	特 別 支 援 教 育 専 攻	「愛情豊かに他者を思いやることができる協調性（以下、「協調性」）」を持つ人、また、「学習を通して獲得した知識・技能・行動力を教育現場に還元するための粘り強く創意工夫する力や向上心（以下、「創意工夫・向上心」）」を有している人材を求めています。
			2. 入学者選抜の基本方針
			1) 一般入試（前期日程） 高等学校までに修得した基礎的学力と得意とする教科についての大学の学習で必要となる発展的学力について、大学入試センター試験、個別学力検査、面接によって、「特別支援教育への意欲」、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」を総合的に判断します。 大学入試センター試験及び個別学力検査では、「知識・技能」、「思考力・表現力」について評価します。 面接では、「特別支援教育への意欲」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」について評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を課さず、小論文、面接、推薦書・調査書によって多様な能力を総合的に判断します。 小論文では、「知識・技能」、「思考力・表現力」について評価します。 面接では、「特別支援教育への意欲」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」について評価します。 推薦書・調査書では、「特別支援教育への意欲」、「知識・技能」について評価します。 3) 帰国子女入試 帰国子女に対して、小論文、面接によって、「特別支援教育への意欲」、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」を総合的に判断します。 4) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対して、小論文、面接によって、「特別支援教育への意欲」、「知識・技能」、「思考力・表現力」、「協調性」、「創意工夫・向上心」を総合的に判断します。
			3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの科目に関する基礎的学力を十分身につけておくことが望まれます。また、「協調性」など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。

2. 医 学 部

(1) 学科のアドミッション・ポリシー

学科	学科のアドミッション・ポリシー
医 学 科	医学科では、臨床医、医学研究者、あるいは医学教育者として宮崎の地域医療に貢献し国際的にも活躍できる、優れた人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像
	医学科では、自ら課題を見つけ解決しようとする探求心と意欲、行動力（主体性・学問への関心）を有し、医学と医療を学ぶために必要な幅広い基礎学力・応用能力（知識・技能）と他者と協調・共感できる豊かな人間性（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目及び英語など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験及び面接によって多様な能力を総合的に判断します。 高等学校までに修得した基礎的な学力など理数系科目及び英語など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験によって知識・技能を評価します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。
看護学科	3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、日本留学試験、個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心について評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれる。
	看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像
	看護学科では看護職者になろうという目的意識と看護学を学ぶために必要な基礎学力（知識・技能）を有し、生活している人々の身体的・精神的健康への関心（学問への関心）、自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力（主体性・多様性）、他者への共感と円滑なコミュニケーション能力（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる学習意欲の高い人材を求めています。
看護学科	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。 面接では主体性、協調性・思考力・表現力、学問への関心について評価します。 後期日程で課す小論文では提示する課題を読解し、自己の見解をまとめ論理的に表現できるかどうかを評価します。それによって、思考力、表現力、主体性・多様性について評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除するかわりに、面接及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性・思考力・表現力、学問への関心について評価します。 小論文では提示する課題についてまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを評価します。それによって、思考力、表現力、主体性・多様性について評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	入試科目として課しているかどうかにかかわらず国語、地歴・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。
	また、国際化の時代にあって、海外から看護の知識を導入し、わが国の看護の成果を発信していくためにも国際語である英語を学習する必要がある。

3. 工 学 部

(1) 学科のアドミッション・ポリシー

学科	学科のアドミッション・ポリシー
環境応用 化 学 科	1. 求める学生像 環境応用化学科では、企業等で実践力を有する工学専門職としてグローバルに活躍できる技術者の育成を教育の目標に掲げ、学士課程を通じて以下の資質や能力を身に付けた人材の育成を行います。 1) 自然との共生、環境との調和および社会への貢献の視点を持ち、社会的責任感と科学的倫理観をもって物事を判断する能力 2) 産業界で技術者として活躍するために必要な工学および化学の基礎を習得し、実験や観察の結果を考察でき、問題解決に柔軟に応用する能力 3) 自主的、継続的な学習により知識や技術を高め、それらを課題の探求と解決に生かし、正しく明瞭にまとめ伝える能力 そこで、環境応用化学科では、化学、化学工学および生物工学を基礎として、地球環境や生態系を保全する物質・資源・エネルギーの生産及び循環プロセスに関する技術の創造と発展に貢献できる人材の育成を目的とした教育研究を行います。 したがって、本学科では次のような人材を求めています。 1) 化学の知識・技術・考え方を真剣に学び、それを将来、応用化学あるいは環境・生物工学などの分野で活かしたいという情熱を持っている人（主体性） 2) 化学及び環境に関連する自然科学に対して幅広い興味や好奇心を持っている人（学問への関心） 3) 実験や観察が好きで科学現象について考え、それを表現できる人（思考力、表現力） 4) 数学、化学を含む理科及び語学の基礎学力を有し、それを身近な問題に応用できる人（知識・理解）
	2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校で修得した基礎的な学力と環境応用化学を学習する上で重要な理数系科目、および英語の学力について、大学入試センター試験と個別学力試験によって、知識・理解および思考力を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、面接と小論文によって自然科学や語学の基礎学力ならびに環境応用化学への強い学修意欲および資質を総合的に判断します。 面接では、知識・理解、主体性、および学問への関心について評価します。 小論文では、限られた時間に与えられた課題に対する自分の考えをまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、思考力と表現力を評価します。 3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、および日本留学試験によって自然科学や語学の基礎学力ならびに環境応用化学への強い学修意欲および日本語によるコミュニケーション能力を総合的に判断します。 面接では、知識・理解、主体性、および学問への関心について評価します。 小論文では、限られた時間に与えられた課題に対する自分の考えをまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、思考力と表現力を評価します。 日本留学生試験では、知識・理解および思考力について評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと 高等学校または高等専門学校等で履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくことが必要です。特に、化学、数学および物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な内容を修得しておくことを求めます。さらに、協調性およびコミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。
	1. 求める学生像 社会環境システム工学科では、技術者の基礎となる能力、土木環境工学のどの分野でも活躍できるための基礎能力、社会の要請を察知・理解して適切な行動ができる、また地球的視点から多面的に物事を考える能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、社会環境システム工学科では、自然との共生が可能な社会基盤（水道、下水道、公園、橋、トンネルなど）の構築や維持補修、交通計画や都市計画、環境保全や廃棄物処理・資源化などの技術や計画に対して熱意を持って取り組み、土木・環境分野および社会的課題に関する興味学問への関心を有し、自然科学の基礎学力に関する知識・理解と日本語と英語を基礎とした表現力を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる積極的に自己学習できる主体性をもった人材を求めています。
社会環境 システム 工 学 科	2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び、小論文及び出願書類によって多様な能力を総合的に判断します。

学科	学科のアドミッション・ポリシー
社会環境システム工学科	面接では主体性、学問への関心について評価します。 小論文では表現力について評価します。 出願書類では知識・理解、主体性、学問への関心について審査します。 3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。 3. 入学までに身に付けてほしいこと センター試験で課す入試科目として課しているかどうかに関わらず、数学、物理、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。
環境ロボティクス学科	1. 求める学生像 環境ロボティクス学科では、技術者としての倫理観、問題解決能力、専門分野で通用するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、環境ロボティクス学科では、機械・電気電子・化学およびコンピュータ等の先端技術に関連する分野、ならびにロボット、介護・福祉機器、環境制御などの設計開発と生活環境や自然環境の改善に関連する学問への関心がある人材を求めています。 また、実験や観察において深く考察する思考力と、その結果の表現力、数学、理科、英語に関する知識・理解、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元できる主体性がある人材を求めています。 2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、学問への関心について評価します。 小論文では、限られた時間に自分の主張をまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、表現力を評価します。 3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。 3. 入学までに身に付けてほしいこと センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に着けると同時に、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。
機械設計システム工学科	1. 求める学生像 機械設計システム工学科では、機械と自然との調和を考える能力、社会秩序や環境保護に対する技術者の責務を考える能力、資源とエネルギーの有効利用を考える能力、機械工学に関連する問題解決能力と創造力、アイデアを実現できるデザイン能力およびそれを説明するコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、機械設計システム工学科では「人と自然に優しいものづくり」に関連する技術の開発や研究に対して熱意を持って取り組み、数学及び理科の基礎的な知識・理解を有し、コミュニケーション能力を身に付ける上で必要となる語学能力と学問への関心を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる意欲溢れる人材を求めています。 2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎科目と理数系科目など大学の学習で必要となる学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、小論文、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 小論文では、思考力、表現力を評価します。 面接では知識・理解、主体性、学問への関心について評価します。 書類審査では機械工学を学ぶ者として必要な資質・態度を審査します。それによって、知識・理解、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、小論文、面接、日本留学試験及び書類審査によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心の評価します。 3. 入学までに身に付けてほしいこと 数学、物理・化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、自主的・継続的に学習する能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

学科	学科のアドミッション・ポリシー
電子物理 工 学 科	1. 求める学生像 電子物理工学科では、人間の文化、社会、自然、及び専攻する学問分野の知識・技能、社会の一員としての意識をもった人間性、社会性、国際性、課題を発見し、情報や知識を複眼的、倫理的に分析して、その課題を解決する力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、電子物理工学科では、太陽光発電やエネルギー計測といった最先端の産業分野に対して熱意を持って取り組み、専門技術者として必要な基礎および専門的な知識・技能を有し、課題を見出し解決に向けて対応できる思考力と自ら学習計画を立て、主体的に学ぶ力を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる課題の解決へ向けて積極的に行動できる人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を課さない場合は、口頭試問を含む面接、志望理由書及び調査書・推薦書によって多様な能力を総合的に判断します。また、大学入試センター試験を課す場合は、面接、志望理由書及び調査書・推薦書及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。 志望理由書では、自然科学や科学技術への関心度を審査します。それによって、表現力、学問への関心について評価します。 調査書・推薦書では、高校生活の諸活動を審査します。それによって、主体性について評価します。 小論文では、限られた時間に自分の主張をまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを審査します。それによって、表現力、主体性を評価します。 3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心度を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと センター試験で課す物理、数学、化学など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、表現力、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。
	1. 求める学生像 電気システム工学科では、技術者にとって必要となる数学を含めた自然科学の知識、電気エネルギーおよび情報通信分野に関する専門技術と実践能力、課題探求能力、課題解決能力およびデザイン能力を有し、多様なグローバル社会の要請に応え得る能力、技術者に求められるコミュニケーション能力、技術者に求められる倫理観、課題や問題に対して、自律的、継続的に取り組むことができる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、電気システム工学科では、電気電子工学分野に対して熱意を持って取り組み、国際的な視野を有し、常に自分が何をもって社会に貢献できるかを問い続ける柔軟な考え方や数学、理科、英語などの基礎的な学力、基礎的な表現力を持つ人、また、問題解決へ向けて、自分から積極的に目標と計画を立て、強い意志をもって持続的に取り組むことができる人を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針 1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目を中心に大学の学習で必要となる専門科目を理解出来る基礎学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、一般入試では評価・確認が困難と思われる特徴的な資質・能力や学習意欲が備わっている人を受け入れます。 大学入試センター試験を課す推薦入試では、理数系科目を中心に、電気システム工学科で学ぶ専門科目を理解出来る基礎学力が備わっていることに加えて、センター試験、面接、小論文、調査書及び志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。 センター試験では、知識・理解について評価します。 面接では、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 小論文では、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 調査書では、知識・理解を調査します。 志望理由書では、表現力、学問への関心について評価します。 それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 大学入試センター試験を課さない推薦入試では、科学技術に対する強い興味と学習意欲を持っていることに加えて、面接、小論文、調査書及び志望理由書によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では、知識・理解、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 小論文では、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。 調査書では、知識・理解を調査します。 志望理由書では、表現力、学問への関心について評価します。 それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心について評価します。

学科	学科のアドミッション・ポリシー
電 気 システ ム 工 学 科	3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、技術者に必要な能力に加えて国際性や語学力、日本で研鑽する熱意、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	センター試験で課す数学、物理など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、履修すべき教科・科目について偏りなく履修しておくこと、電気システム工学分野の中核的科目である数学と物理については、それらの基本的な知識と理解を有し、さらに教科書レベルの標準的な問題を解くことができることなど、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。
情 報 システ ム 工 学 科	1. 求める学生像
	情報システム工学科では、社会に対する責任感、問題解決能力、専門分野で通用する高度なコミュニケーション能力を身に付けた人材の育成を目標としています。
	そこで、情報システム工学科では、情報科学技術を通じ、人類の幸福と社会の発展に貢献しようと熱意を持って取り組み、公式を覚えるのではなく公式そのものを導出できる知識・技能を有し、情報工学の学習に必要な数学、理科、英語についての基礎学力を持ち、明確な目標を持って継続的に自己学習を続けられる主体性を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる情熱に溢れる人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 a) センター試験を課さない推薦入試 工業系高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では、知識・理解、思考力、主体性、学問への関心について評価します。 小論文では、限られた時間に自分の主張をまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、表現力を評価します。
	b) センター試験を課す推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、面接及び小論文によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では、主体性、学問への関心について評価します。 小論文では、限られた時間に自分の主張をまとめ、それを論理的に表現できるかどうかを調査します。それによって、表現力を評価します。
	3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	センター試験で課す数学、物理、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことを望みます。

4. 農 学 部

(1) 学科のアドミッション・ポリシー

学科	学科のアドミッション・ポリシー
植物生産環境科学科	植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像
	植物生産環境科学科では、安全・高品質な農・園芸作物の安定供給に対して熱意を持って取り組み（主体性）、自然現象に対する強い知的好奇心と自然環境に配慮した農業生産に対する関心（学問への関心）を有する人、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎的学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を地域・社会に還元することができ（協調性）、国際的な視野と責任感を有する人を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心进行评估します。
森林緑地環境科学科	3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文、出願書類によって、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解を評価します。
	4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解を評価します。
	5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心进行评估します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	数学、理科、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。
	森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。
森林緑地環境科学科	1. 求める学生像
	森林緑地環境科学科では、森林・緑地の環境保全と生態系の修復、森林資源や水資源の循環的・安定的利用に対して熱意を持って取り組み（主体性）、森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味や関心（学問への関心）を有し、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を持つ（協調性）人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心进行评估します。
	3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、協調性、学問への関心进行评估します。

学科	学科のアドミッション・ポリシー
森林緑地 環境科 学 科	4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解、思考力を評価します。
	5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心の評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと 理科、数学、外国語など、高等学校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、勉学において自ら興味を深め課題を発見する姿勢、多様な意見を聞きながら課題解決を図る態度を身に付けておくことが望ましい。
応用生物 科 学 科	応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学および自然科学に関する基礎知識、応用生物学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像 応用生物科学科ではバイオサイエンス分野の先端技術の獲得、食品機能の探求や環境保全に対して熱意を持って取り組み（主体性）、動植物や微生物の機能や利用に対する深い関心（学問への関心）を有し、実験結果や観察内容を深く考察し（思考力）、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる化学や生物、英語に関する学力を有する人（知識・理解）、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を応用生物学分野の技術者として社会に還元することのできる人材（協調性）を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる理科についての発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、知識・理解、思考力、学問への関心、協調性について評価します。 書類審査では調査書、推薦書、志望理由書を審査します。それによって、主体性、知識・理解、学問への関心、表現力、協調性について評価します。
海洋生物 環境学 科	3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって、思考力、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、協調性を評価します。
	4) 社会人入試 社会人に対し、面接、書類審査によって、知識・理解、主体性、協調性、思考力、表現力を評価します。
	5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接によって、知識・理解、思考力、表現力、協調性、主体性を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと 理科（特に化学・生物）、数学、英語、国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。
	海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。
海洋生物 環境学 科	1. 求める学生像 海洋生物環境学科では、海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味（学問への関心）を有し、海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組み（主体性）、実験や観察において深く考察（思考力）し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる（協調性）人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では、表現力、主体性、学問への関心および思考力を評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解を評価します。
	3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力および協調性を評価します。

学科	学科のアドミッション・ポリシー
海洋生物 環境学科	4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、表現力、主体性、学問への関心、思考力および協調性を評価します。
	5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、表現力、主体性、知識・理解、学問への関心、思考力および協調性を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性、表現力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。
畜産草地 科学科	畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境および食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像
	畜産草地科学科では、資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に対して熱意（主体性）を持って取り組み、動植物に対する幅広い興味や関心（学問への関心）を有し、実験や観察において深く考察する能力（思考力）を有し、その結果を表現する力（表現力）、大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる資質（協調性）を有する人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力を総合的に評価します。
	2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、面接及び書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 面接では主体性、協調性、学問への関心について評価します。 書類審査では推薦書、調査書、志望理由書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、学問への関心性を評価します。
	3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接と小論文によって、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。
	4) 社会人入試 社会人に対し、面接と書類審査によって、主体性、協調性、学問への関心、知識・理解、思考力を評価します。
	5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文、日本留学試験、出願書類によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	生物、化学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。
獣医学科	獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。
	1. 求める学生像
	獣医学科では大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力を持ち（知識・理解）、自然科学に対する幅広い興味や関心を有し（学問への関心）、ヒトと動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる（主体性）人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と理数系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解を総合的に評価します。
	2) 帰国子女入試 帰国子女に対し、面接、小論文によって、知識・理解、主体性、学問への関心を評価します。
獣医学科	3) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、面接、小論文によって、知識・理解、主体性、学問への関心を評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	試験で課す理科、数学、英語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、協調性など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

(2) グローバル人材育成学部教育プログラムのアドミッション・ポリシー

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、農学に関する基礎知識、生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術、専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力、国内外の諸課題に対応できる国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、農学分野に係る諸問題解決能力の修得に意欲的に取り組み（主体性）、生物資源とバイオテクノロジー分野に対する強い興味や関心（学問への関心）を有し、大学課程において効率よく質の高い学習が可能な論理性と考察力（思考力）を持ち、英語でのコミュニケーション能力（表現力）と大学での学修の基盤となる幅広い知識と基礎学力（知識・理解）を有する人、また、学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる（協調性）人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

外国人留学生に対して、書類選考と面接試験によって多様な能力を総合的に判断します。書類審査では高等学校の成績証明書、推薦書、英語能力試験結果、志望理由書、自己アピール文書を審査します。それによって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。

面接においても知識・理解、思考力、表現力、主体性、協調性、学問への関心を評価します。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、勉学において自ら興味を深め課題を発見する姿勢、多様な意見を聞きながら課題解決を図る態度など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

5. 地域資源創成学部

(1) 学科のアドミッション・ポリシー

学 科	学科のアドミッション・ポリシー
地域資源 創成学科	地域資源創成学部では、地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目標としています。
	1. 求める学生像
	地域資源創成学部では地域振興に対して熱意（学問への関心）を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力（知識・理解）を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材を求めています。
	2. 入学者選抜の基本方針
	1) 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校までに修得した基礎的な学力と社会科学および自然科学系科目など大学の学習で必要となる発展的な学力について、大学入試センター試験と個別学力検査によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。 2) 推薦入試 高等学校での学業成績が優秀な者に対して、大学入試センター試験を免除する代わりに、小論文、面接、書類審査によって多様な能力を総合的に判断します。 小論文、面接では、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心について評価し、書類審査では、知識・理解、主体性を審査します。 3) 帰国子女入試 帰国子女に対し、小論文、面接によって、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価し、書類審査によって知識・理解を審査します。 4) 社会人入試 社会人に対し、面接によって、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価し、書類審査によって知識・理解を審査します。 5) 私費外国人留学生入試 外国人留学生に対し、日本留学試験、小論文、面接によって、知識・理解、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。
	3. 入学までに身に付けてほしいこと
	入試科目として課しているかにかかわらず、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、協調性、主体性など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

Ⅱ. 入学者選抜の概要

1. 入学者選抜実施日程

大学入学者選抜大学入試センター試験	試 験 日	1月13日(土)・14日(日)
-------------------	-------	-----------------

区 分	学 部 名	募集要項 発表予定	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
一 般 入 試	前期日程	11月中旬	1月22日(月) 1月31日(水)	2月25日(日)・ ※1 26日(月) 教育学部学校教育 課程発達支援教育コー ス及び医学部のみ 25・26日の2日間実施	3月7日(水)
	後期日程			3月12日(月)・ ※2 13日(火) 医 学 部 の み 12・13日の2日間実施	3月21日(水)
推 薦 入 試	大学入試 センター試験 を課さない ※3	教育学部 学校教育課程 小中一貫教育コース 中学校主専攻(技術等) 教職実践基礎コース 発達支援教育コース 特別支援教育専攻 医学部 看護学科 工学部 全学科 農学部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科 地域資源創成学部 地域資源創成学科	9月中旬	11月1日(水) 6日(月)	教 育 学 部 医 学 部 工 学 部 農 学 部 11月21日(火)・ 22日(水) 地域資源創成学部 11月23日(木)・ 24日(金)
	大学入試 センター試験 を課す	教育学部 学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主専攻 発達支援教育コース 子ども理解専攻 医学部 医学科 工学部 電子物理工学科 電気システム工学科 情報システム工学科		教 育 学 部 工 学 部 12月15日(金) 19日(火) 医 学 部 12月1日(金) 5日(火)	教 育 学 部 工 学 部 1月19日(金) 医 学 部 12月26日(火) ※4

※1教育学部学校教育課程発達支援教育コース及び医学部看護学科の前期日程は、受験者数によっては2月25日(日)の1日で終了する場合があります。

※2医学部の後期日程は、受験者数によっては3月12日(月)の1日で終了する場合があります。

※3推薦入試(大学入試センター試験を課さない)については、受験者数によっては11月21日(火)または11月23日(木)の1日で終了する場合があります。

※4医学部医学科の地域枠・地域特別枠については第2次選考日です。

区 分	学 部 名	募集要項 発表予定	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
A O 入 試 (アドミッション ・オフィス入試) 〔大学入試 センター試験 を 課 す〕	教育学部 学校教育課程 小中一貫教育コース 中学校主専攻 (音楽・美術・保健 体育・家庭・英語)	9 月 中 旬	11月1日(水) ゝ 6日(月)	(第1次選考) 11月25日(土) 26日(日) (第2次選考) 1月20日(土) 21日(日) (ともに2日間)※ ⁵	(第1次選考) 12月1日(金) (最終) 2月7日(水)
グローバル人材 育 成 入 試	農学部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科	9 月 中 旬	11月10日(金) ゝ 21日(火)	(第1次選考) 書 類 選 考 (第2次選考) 12月13日(水)	(第1次選考) 12月1日(金) (最終) 12月22日(金)
帰国子女入試	教育学部 学校教育課程 全コース・専攻 農学部 全学科 地域資源創成学部 地域資源創成学科	9 月 中 旬	11月1日(水) ゝ 6日(月)	11月22日(水)	12月1日(金)
社会人入試	農学部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科 地域資源創成学部 地域資源創成学科				
私費外国人 留学生入試	教育学部 学校教育課程 全コース・専攻 医学部 医学科 工学部 全学科 農学部 全学科 地域資源創成学部 地域資源創成学科		1月17日(水) ゝ 19日(金)	教 育 学 部 工 学 部 農 学 部 地域資源創成学部 2月8日(木) 医 学 部 2月25日(日)	教 育 学 部 工 学 部 農 学 部 地域資源創成学部 2月27日(火) 医 学 部 3月7日(水)

※⁵教育学部のAO入試は、いずれの選考も出願状況により試験日が確定します。いずれかの1日、又は2日間での実施となります。

2. 入学定員（募集人員）

学部	学 科 ・ 課 程 コ ー ス ・ 専 攻 等			入試形態	入学定員	募 集 人 員								
						一 般 入 試		推 薦 入 試	A O 入 試	グローバル人材育成入試	帰 国 子 女 入 試	社 会 人 入 試	私費外国人留学生入試	
						前 期 日 程	後 期 日 程							
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	小中一貫教育コース ※1	小学校主免専攻	2/3型入試	120	20		12			若干人		若干人	
				理系入試		8								
				小論文型入試			10							
			中学校主免専攻	2/3型入試		10		3	12					
				理系入試		10								
				小論文型入試			5							
		教職実践基礎コース				2/3型入試	5		5					
		発達支援教育コース	子ども理解専攻	2/3型+面接入試		7		3						
			特別支援教育専攻	2/3型+面接入試		7		3						
	小 計				120	67	15	26	12					
医 学 部	医 学 科 ※2			110	50	20	40					若干人		
	看 護 学 科			60	35	10	15							
	小 計			170	85	30	55							
工 学 部	環 境 応 用 化 学 科			58	34	12	12					若干人		
	社会環境システム工学科			53	33	10	10					若干人		
	環 境 ロ ボ テ ィ ク ス 学 科			49	29	10	10					若干人		
	機 械 設 計 シ ス テ ム 工 学 科			54	32	11	11					若干人		
	電 子 物 理 工 学 科			53	31	10	12					若干人		
	電 気 シ ス テ ム 工 学 科			49	29	10	10					若干人		
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科			54	32	11	11					若干人		
	小 計			370	220	74	76							
農 学 部	植 物 生 産 環 境 科 学 科			52	28	14	10		(10) ※3	若干人	若干人	若干人		
	森 林 緑 地 環 境 科 学 科			52	31	11	10			若干人	若干人	若干人		
	応 用 生 物 科 学 科			57	34	12	11			若干人	若干人	若干人		
	海 洋 生 物 環 境 学 科			33	18	11	4			若干人	若干人	若干人		
	畜 産 草 地 科 学 科			61	36	15	10			若干人	若干人	若干人		
	獣 医 学 科			30	20	10			若干人		若干人			
	小 計			285	167	73	45		(10)					
創 成 学 部	地 域 資 源 創 成 学 科			90	55	20	15			若干人	若干人	若干人		
	小 計			90	55	20	15							
合 計					1,035	594	212	217	12	(10)				

※1 教育学部学校教育課程小中一貫教育コースでは、入学後、一つの教科を専修とします。専修とすることのできる教科は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭及び英語です。なお、決定方法は次のとおりです。
 小学校主免専攻：本人の希望を考慮した上で、入学後に決定します。
 中学校主免専攻：一般入試（前期日程及び後期日程）、帰国子女入試及び私費外国人留学生入試で入学した場合、本人の希望に基づき入学後に決定します。推薦入試及びAO入試で入学した場合、出願時に選択した教科が専修となります。

※2 医学部医学科の入学定員については、平成29年度で終了する暫定措置（臨時増員5名）の延長を文部科学省に申請する予定であり、その人数が含まれます。延長が認められ次第、本学のホームページ等で公表します。

※3 農学部グローバル人材育成入試の募集人員10名は、農学部一般入試（獣医学科を除く）の募集人員210名の中に含まれます。

（備考）

- 一般入試の各募集人員には、帰国子女入試、社会人入試、私費外国人留学生入試の募集人員（それぞれ若干人）を含みます。
- 推薦入試の入学者が募集人員に満たない場合は、教育学部、医学部及び農学部は前期日程、工学部及び地域資源創成学部は後期日程の募集人員にその満たない人数を加えます。なお、教育学部学校教育課程小中一貫教育コース小学校主免専攻及び中学校主免専攻は、それぞれ【2/3型入試】に加えます。
- 教育学部のAO入試の入学者が募集人員に満たない場合は、前期日程の中学校主免専攻【2/3型入試】の募集人員にその満たない人数を加えます。
- 農学部グローバル人材育成入試の入学者が募集人員に満たない場合は、一般入試の募集人員にその満たない人数を加えます。
- 教育学部の一般入試のうち、教職実践基礎コース及び発達支援教育コースについては前期日程のみで実施します。
- 農学部グローバル人材育成入試は日本の国籍を有しないものに限りです。詳細については47ページを参照してください。

(1) 一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試，AO入試

(1) 一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試，AO入試

※1 AO入試は中学校主免専攻のみでの募集となります。
 ※2 医学部医学科において、面接の評価が合格に達しない者は不合格とします。
 ※3 大学入試センター試験の成績により行い、原則として前期は募集人員の約6倍、後期は募集人員の約10倍の範囲で第1段階選抜を行います。

学部・学科等名			選抜方法等	個別学力検査等										専門高校・総合学科					A O 入 試	個別学力検査等の日程	備考 [欠員の補充 の方法等]	
				個別学力検査を課す	実技検査等					2段階選抜					卒業生入試							
					実技検査を課す	面接を行う	小論文を課す	総合問題を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	主として調査書の内容と大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行いその合格者について更に必要な検査等を行う	合格者数	第1段階の選抜による	その他	個別学力検査を課す	実技検査等							募集人員
															実技検査を課す	面接を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す				
工学部	前期日程	環境応用化学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2月25日(日)	入学定員に欠員が生じた場合は追加合格を行うことがあります。さらに必要と認める場合には欠員補充第2次募集を行うことがあります。			
		社会環境システム工学科																				
		環境ロボティクス学科																				
		機械設計システム工学科																				
		電子物理工学科																				
	後期日程	電気システム工学科																				
		情報システム工学科																				
		環境応用化学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		3月12日(月)				
		社会環境システム工学科																				
		環境ロボティクス学科																				
農学部	前期日程	植物生産環境科学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2月25日(日)		入学定員に欠員が生じた場合は追加合格を行うことがあります。さらに必要と認める場合には欠員補充第2次募集を行うことがあります。			
		森林緑地環境科学科																				
		応用生物科学科																				
		海洋生物環境学科																				
		畜産草地科学科																				
後期日程	獣医学科																					
	植物生産環境科学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		3月12日(月)					
	森林緑地環境科学科																					
	応用生物科学科																					
	海洋生物環境学科																					
地域資源創成学部	前期日程	地域資源創成学科	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		2月25日(日)	入学定員に欠員が生じた場合は追加合格を行うことがあります。さらに必要と認める場合には欠員補充第2次募集を行うことがあります。			
	後期日程	地域資源創成学科	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		3月12日(月)					

(2) 推薦入試，帰国子女入試，社会人入試，私費外国人留学生入試

学部・学科等名			選 抜 方 法 等	推 薦 入 試								帰国子女、 社会人のための 入学試験		私費外国人留学生入試	備 考
				入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する						推薦入試募集人員	帰国子女入試	社会人入試			
				個別学力検査を課す	個別学力検査を課す	実 技 検 査 等							その他		
				免除する	免除する	面接を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す							
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース 小学校主専攻	○	×	×	○	×	×	×	12人	○	×	○		
		小中一貫教育コース 中学校主専攻	×	○	×	○	○	×	×	3人	○	×	○		
		教職実践基礎コース	×	○	×	○	○	×	×	5人	○	×	○		
		発達支援教育コース 子ども理解専攻	○	×	×	○	×	×	×	3人	○	×	○		
		発達支援教育コース 特別支援教育専攻	×	○	×	○	○	×	×	3人	○	×	○		
医学部	医 学 科		○	×	×	○	×	×	×	40人	×	×	○		
	看 護 学 科		×	○	×	○	○	×	×	15人	×	×	×		
工学部	環 境 応 用 化 学 科		×	○	×	○	○	×	×	12人	×	×	○	「電子物理工学科」、「電気システム工学科」及び「情報システム工学科」の推薦入試については、上段を「センター試験を課さない入試」、下段を「センター試験を課す入試」として表示しています。	
	社会環境システム工学科		×	○	×	○	○	×	×	10人	×	×	○		
	環境ロボティクス学科		×	○	×	○	○	×	×	10人	×	×	○		
	機械設計システム工学科		×	○	×	○	○	×	×	11人	×	×	○		
	電 子 物 理 工 学 科		×	○	×	○	○	×	×	5人 7人	×	×	○		
	電 気 シ ス テ ム 工 学 科		×	○	×	○	○	×	×	5人 5人	×	×	○		
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科		×	○	×	○	○	×	×	5人 6人	×	×	○		
農学部	植物生産環境科学科		×	○	×	○	×	×	×	10人	○	○	○	推薦入試では、応用生物科学科は、面接を行う前に試験内容を提示し、面接でこれに関する口頭試験を行います。	
	森林緑地環境科学科		×	○	×	○	×	×	×	10人	○	○	○		
	応 用 生 物 科 学 科		×	○	×	○	×	×	×	11人	○	○	○		
	海洋生物環境学科		×	○	×	○	×	×	×	4人	○	○	○		
	畜産草地科学科		×	○	×	○	×	×	×	10人	○	○	○		
	獣 医 学 科		×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○		
地域資源創成学部		地域資源創成学科	×	○	×	○	○	×	×	15人	○	○	○	推薦入試では、普通科（あるいはこれに準ずる学科）を卒業又は卒業見込みの者を10名、職業教育を主とする専門学科又は総合学科を卒業又は卒業見込みの者を5名募集します。	

※農学部において、日本の国籍を有しないものを対象としたグローバル人材育成入試を実施します。詳細については47ページを参照してください。

Ⅲ. 一般入試

1. 出願資格

本学に出願できる者は、次のいずれかに該当し、かつ、平成30年度大学入学者選抜大学入試センター試験のうち本学が指定した教科・科目を受験した者としてします。

ただし、推薦入試、AO入試、グローバル人材育成入試、帰国子女入試、社会人入試及び私費外国人留学生入試については、該当のページを参照してください。

- ①高等学校（特別支援学校の高等部を含む）または中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- ③学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者

※上記③に該当する者のうち、学校教育法施行規則第150条第7号の規定により個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者には入学資格を認めます。

本学の個別の入学資格審査により入学資格の認定を受けようとする者は、宮崎大学学生支援部入試課にお問い合わせください。なお、詳細は本学ホームページ（<http://www.miyazaki-u.ac.jp/>）「入試情報」→「入学資格審査」にも掲載してありますので、ご参照ください。

2. 入学者選抜方法等

（1）入学者選抜の実施教科・科目等

大学入試センター試験及び個別学力検査等の受験教科・科目等は、21～27ページのとおりです。志望する学部・学科課程（コース・専攻）の指定した教科・科目を確実に受験してください。

なお、大学入試センター試験において、指定した教科・科目（第1解答科目の指定を含む）を受験していないことが判明した場合、出願無資格者として取り扱いますので、注意してください。

また、個別学力検査等において、指定した教科・科目等を1つでも受験していない者は、当該学部の合否判定の対象となりませんので、注意してください。

1) 大学入試センター試験の教科・科目名は、次のように表記しています。

教科名	科 目 名
国語→国	『国語』→『国語』
地理歴史→地歴	『世界史A』→『世A』, 『世界史B』→『世B』, 『日本史A』→『日A』, 『日本史B』→『日B』, 『地理A』→『地理A』, 『地理B』→『地理B』
公民→公民	『現代社会』→『現社』, 『倫理』→『倫』, 『政治・経済』→『政経』, 『倫理・政治・経済』→『倫・政経』
数学→数	『数学Ⅰ』→『数Ⅰ』, 『数学Ⅱ』→『数Ⅱ』, 『数学A』→『数A』, 『数学B』→『数B』, 『簿記・会計』→『簿』, 『情報関係基礎』→『情報』
理科→理	『物理基礎』→『物基』, 『化学基礎』→『化基』, 『生物基礎』→『生基』, 『地学基礎』→『地基』, 『物理』→『物』, 『化学』→『化』, 『生物』→『生』, 『地学』→『地学』
外国語→外	『英語』→『英』, 『ドイツ語』→『独』, 『フランス語』→『仏』, 『中国語』→『中』, 『韓国語』→『韓』

※理科の『基礎を付した科目』とは、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を指し、『基礎を付していない科目』とは、物理、化学、生物、地学を指します。

2) 個別学力検査等の出題科目名は、上記1)と同様に表記するほか、次のように表記しています。

科目名	『数学Ⅲ』→『数Ⅲ』, 『コミュニケーション英語Ⅰ』→『コ英Ⅰ』, 『コミュニケーション英語Ⅱ』→『コ英Ⅱ』, 『コミュニケーション英語Ⅲ』→『コ英Ⅲ』, 『英語表現Ⅰ』→『英表Ⅰ』, 『英語表現Ⅱ』→『英表Ⅱ』
-----	--

①教育学部（平成29年度志願倍率 6.2倍）

（前期日程 2月25日、2月26日）

課程・コース 及び募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
		科 目 名 等		教科等	科 目 名 等	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計
(2/3型入試) (注①) 学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主免専攻 20人 中学校主免専攻 10人 教職課程基礎コース 5人	国 数 地歴 公民 理 外	国語 (数Ⅰ、数Ⅱ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿・情報から1)の2 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、「倫・政経」 } から1又は2 物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から1又は2 } から3 (注☆) 英(J・Cを含む)、独、仏、中、韓から1 (5教科7科目・5教科8科目・6教科7科目・6教科8科目)	国 数 外	国語総合・現代文B・ 古典B 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B } から2 二英Ⅰ・二英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ (2教科2科目)	センター 試験	200	200 100	200	100 200	200				900
					個別学 力検査	100 *		100 *		100 *			200	
					計	300 *	200 100	300 *	100 200	300 *			1100	
(理系入試) (注②) 学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主免専攻 8人 中学校主免専攻 10人	国 数 地歴 公民 理 外	国語 (数Ⅰ、数Ⅱ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿・情報から1)の2 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、「倫・政経」 } から1 物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2 (注★) 英(J・Cを含む)、独、仏、中、韓から1 (5教科7科目・5教科8科目)	数 理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物理・物 化学・物 生基・生 } から1 (2教科2科目)	センター 試験	200	100	200	200	200				900
					個別学 力検査			200	200				400	
					計	200	100	400	400	200			1300	
(2/3型 十面型入試) 学校教育課程 発達支援教育コース 子ども支援専攻 7人 特別支援教育専攻 7人	国 数 地歴 公民 理 外	国語 (数Ⅰ、数Ⅱ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿・情報から1)の2 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、「倫・政経」 } から1又は2 物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から1又は2 } から3 (注☆) 英(J・Cを含む)、独、仏、中、韓から1 (5教科7科目・5教科8科目・6教科7科目・6教科8科目)	国 数 外 その他	国語総合・現代文B・ 古典B 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B } から2 二英Ⅰ・二英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ (2教科2科目)	センター 試験	200	200 100	200	100 200	200				900
					個別学 力検査	100 *		100 *		100 *		300	500	
					計	300 *	200 100	300 *	100 200	300 *		300	1400	

（注①）第2志望選抜を実施します。詳細は22ページを参照してください。

（注☆）次の①②③④よりいずれかを選択。

①地歴・公民から2科目と理科の基礎を付した科目2科目、②地歴・公民から2科目と理科の基礎を付していない科目1科目、

③地歴・公民から1科目と理科の基礎を付した2科目と基礎を付していない科目1科目（同一名称科目（物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学）の選択は不可）、④地歴・公民から1科目と理科の基礎を付していない科目2科目

（注★）次の①②よりいずれかを選択。①理科の基礎を付した科目2科目と理科の基礎を付していない科目1科目（同一名称科目（物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学）の選択は不可）、②理科の基礎を付していない科目2科目

（後期日程 3月12日）

課程・コース 及び募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
		科 目 名 等		教科等	科 目 名 等	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計
（小論文型入試） （注①） 学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校注免専攻 10人 中学校注免専攻 5人	国 地歴 公民 理 外	国語 （数Ⅰ、数Ⅱ・数Aから1）と （数Ⅱ、数Ⅲ・数B、簿 情報から1）の2		その他	小論文	センター 試験	200	200 100	200	100 200	200			900
						個別学 力検査						300		300
						計	200	200 100	200	100 200	200	300		1200
		（5教科7科目・5教科8科目・6教科7科目・6教科8科目）												

（注①）第2志望選抜を実施します。詳細は22ページを参照してください。

（注☆）次の①②③④よりいずれかを選択。

①地歴・公民から2科目と理科の基礎を付した科目2科目、②地歴・公民から2科目と理科の基礎を付していない科目1科目、

③地歴・公民から1科目と理科の基礎を付した2科目と基礎を付していない科目1科目（同一名称科目（物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学）の選択は不可）、④地歴・公民から1科目と理科の基礎を付していない科目2科目

【注】22ページの注意事項を必ずお読みください。

注意事項（教育学部）

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 1) 地歴・公民、及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は、解答順に「第1解答科目」及び「第2解答科目」として取り扱いいます。
- 2) 地歴・公民を1科目と指定している場合において、2科目受験しているときは、受験した科目のうち第1解答科目の成績を採用します。
(理系入試が該当)
- 3) 地歴・公民、理科の受験科目を3科目(理科の基礎を付した科目を選択する場合は4科目)と指定している場合において、指定科目数を超過して受験しているときは、次のとおり成績を採用します(2/3型入試(前期)、2/3型+面接入試(前期)、小論文型入試(後期)が該当)

受 験 科 目 数			得点の採用方法
地歴 公民	理科		
	理科①	理科②	
2	2	1	『地歴・公民の第1解答科目』と 『「地歴・公民の第2解答科目」, 「理科①の2科目」, 「理科②の1科目」のうち高得点の2つの成績』 ※ただし、理科①及び理科②において同一名称を含む出題科目を同時に採用することはできない。
	—	2	『地歴・公民の第1解答科目』と『理科②の第1解答科目』と 『「地歴・公民の第2解答科目」, 「理科②の第2解答科目」のうち高得点の1科目』

※理科①は基礎を付した科目、理科②は基礎を付していない科目

- 5) 「外国語」において『英語』は、筆記試験、リスニングテストの両方を必ず受験してください(大学入試センターからリスニングテストを免除された者を除く)。筆記試験のみ受験した者(免除者を除く)及びリスニングテストのみ受験した者は英語を受験しなかった者として取り扱いいます。
大学入試センター試験の外国語において英語(250点満点)とその他の外国語(200点満点)で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点250点満点を200点満点に圧縮後、課程・コース(専攻)の配点に換算します。リスニングテストを免除された者は筆記試験(200点)を課程・コース(専攻)の配点に換算します。
- 6) 大学入試センター試験の成績は、全ての課程・コース(専攻)において平成30年度のものに限り利用します。

【個別学力検査等】欄

- 1) 数学の出題範囲については以下のとおりとします。
①数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学Aは全範囲から出題します。
②数学Bは「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- 2) 理科の出題範囲については以下のとおりとします。
①物理基礎・物理は全範囲から出題します。
②化学基礎・化学は全範囲から出題します。
③生物基礎・生物は全範囲から出題します。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は選択教科を示します。

※第2志望について

- 1) 教育学部の前期日程で2/3型入試『学校教育課程小中一貫教育コース小学校主専攻, 中学校主専攻及び教職実践基礎コース』を志願する場合、第1志望のコース・専攻等に加えて、『』内から別のいずれか1つのコース・専攻等を第2志望とすることができます。
- 2) 教育学部の前期日程で理系入試『学校教育課程小中一貫教育コース小学校主専攻及び中学校主専攻』を志願する場合、第1志望の専攻に加えて、『』内の別の専攻を第2志望とすることができます。
- 3) 教育学部の後期日程小論文型入試『学校教育課程小中一貫教育コース小学校主専攻及び中学校主専攻』を志願する場合、第1志望の専攻に加えて、『』内の別の専攻を第2志望とすることができます。
- 4) 第1志望コース・専攻等と第2志望コース・専攻等が同一の場合又は第2志望コース・専攻等が未記入の場合は、第1志望コース・専攻等でのみ合否判定します。

②医学部（平成29年度志願倍率 9.0倍）

学科	日程及び募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
			科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点合計
医学科	前期 2月25日 2月26日 50人	国	国語	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 〔2教科2科目〕 〔5教科7科目〕	数	セナ試験 個別学力検査 計	200	100	200	200	200			900	
		地歴公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、〔倫・政経〕 } から1				外			300		300		※	600
		数	数Ⅰ・数Aと〔数Ⅱ・数B、簿、情報から1〕の2				その他	面接	200	100	500	200	500		1500
	後期 3月12日 3月13日 20人	理	物、化、生から2	理	外	セナ試験 個別学力検査 計	200	100	200	200	200			900	
		外	英（リスニングを含む）				コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 〔2教科2科目〕				150	150		※	300
							〔5教科7科目〕	その他	面接	200	100	200	350	350	
看護学科	前期 2月25日 2月26日 35人	国	国語	数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物、化、生から1 英（リスニングを含む） 〔5教科5科目〕	その他	面接	セナ試験 個別学力検査 計	200	100	200	100	200			800
		地歴公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B 現社、倫、政経、〔倫・政経〕 } から1											300	300
		数	数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数B、簿、情報から1							200	100	200	100	200	
	後期 3月12日 3月13日 10人	理	物、化、生から1	その他	小論文 面接	セナ試験 個別学力検査 計	200	100	200	100	200			800	
		外	英（リスニングを含む）										100	200	300
						〔5教科5科目〕				200	100	200	100	200	100

【注】下記の注意事項を必ずお読みください。

注意事項（医学部）

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 1) 地歴・公民、及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は、解答順に「第1解答科目」と及び「第2解答科目」として取り扱いします。
- 2) 地歴・公民を2科目受験しているときは、「第1解答科目」の成績を採用します。
- 3) 看護学科において、理科の基礎を付していない科目を2科目受験しているときは、「第1解答科目」の成績を採用します。
- 4) 看護学科において、数学を2科目受験しているときは、高得点の科目の成績を採用します。
- 5) 「外国語」において『英語』は、筆記試験、リスニングテストの両方を必ず受験してください（大学入試センターからリスニングテストを免除された者を除く）。筆記試験のみ受験した者（免除者を除く）及びリスニングテストのみ受験した者は英語を受験しなかった者として取り扱いします。
大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、筆記試験（200点）とリスニングテスト（50点）の合計得点250点満点を200点満点に圧縮後、各学科の配点に換算します。リスニングテストを免除された者は筆記試験（200点）を各学科の配点に換算します。
- 6) 大学入試センター試験の成績は、全ての学科において平成30年度のものに限り利用します。

【個別学力検査等】欄

- 1) 数学の出題範囲については以下のとおりとします。
①数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは全範囲から出題します。
②数学Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 2) 理科の出題範囲については以下のとおりとします。
①化学基礎・化学は全範囲から出題します。
- 3) 医学部医学科において、第1段階選抜は大学入試センター試験の成績により行い、原則として前期は募集人員の約6倍までを、後期は募集人員の約10倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査を行います。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

※面接は、合否判定の重要な資料とします。面接の評価が合格に達していない者は不合格とします。

③工学部（平成29年度志願倍率 6.1倍）

学科	日程及び 募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	教科等	個別学力検査等 科 目 名 等	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
			科 目 名 等			試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接 配点 合計
④機械設計システム工学科 ⑤電子物理工学科 ⑥電気システム工学科 ⑦情報システム工学科	前期 2月25日 ①34人 ②33人 ③29人 ④32人 ⑤31人 ⑥29人 ⑦32人	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」 数Ⅰ・数Aと（数Ⅱ・数B、簿、情報から1）の2 理 物、化、生から2 外 英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化から1 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・英表Ⅰ 〔3教科3科目〕	センター 試験	200	100	200	200	200		900
						個別学 力検査			250	250	100		600
						計	200	100	450	450	300		1500
⑧環境応用化学科 ⑨環境ロボティクス学科	後期 3月12日 ①12人 ②10人 ③10人 ④11人 ⑤10人 ⑥10人 ⑦11人	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」 数Ⅰ・数Aと数Ⅱ・数Bの2 理 物、化、生から2 外 英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	理	物基・物 化基・化から1 〔1教科1科目〕	センター 試験	200	100	200	200	200		900
						個別学 力検査				300			300
						計	200	100	200	500	200		1200

【注】下記の注意事項を必ずお読みください。

注意事項（工学部）

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 1) 地歴・公民、及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は、解答順に「第1解答科目」と及び「第2解答科目」として取り扱いいます。
- 2) 地歴・公民を2科目受験しているときは、「第1解答科目」の成績を採用します。
- 3) 前期日程の数学において、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。
- 4) 「外国語」において『英語』は、筆記試験、リスニングテストの両方を必ず受験してください（大学入試センターからリスニングテストを免除された者を除く）。筆記試験のみ受験した者（免除者を除く）及びリスニングテストのみ受験した者は英語を受験しなかった者として取り扱いいます。
大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、筆記試験（200点）とリスニングテスト（50点）の合計得点250点満点を200点満点に圧縮後、各学科の配点に換算します。リスニングテストを免除された者は筆記試験（200点）を各学科の配点に換算します。
- 5) 大学入試センター試験の成績は、全ての学科において平成30年度のものに限り利用します。

【個別学力検査等】欄

- 1) 数学の出題範囲については以下のとおりとします。
①数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは全範囲から出題します。
②数学Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 2) 理科の出題範囲については以下のとおりとします。
①物理基礎・物理は全範囲から出題します。
②化学基礎・化学は全範囲から出題します。
- 3) 前期日程において、英語の資格・検定試験の一定以上のスコア（級）を取得している場合、個別学力検査における英語の試験を免除し、英語を満点とします。詳細については28ページを参照してください。

※第2志望について

工学部の全学科で前期日程・後期日程とも第2志望ができます。

④農学部（平成29年度志願倍率 5.1倍）

学科	日程及び 募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
			科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計
植物生産環境科学科	前期 2月25日 28人	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	セナ 試験	200	100	200	200	200			900
		地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」	理	物基・物 化基・化 生基・生	個別学 力検査			200 *	200 *				200
	後期 3月12日 14人	数	数Ⅰ・数Aと(数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2			計	200	100	400 *	400 *	200			1100
		理	物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2(注★)	理	物基・物 化基・化 生基・生	セナ 試験	200	100	200	200	200			900
森林緑地環境科学科	前期 2月25日 31人	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	セナ 試験	200	100	200	200	200			900
		地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」	理	物基・物 化基・化 生基・生	個別学 力検査			300 *	300 *				300
	後期 3月12日 11人	数	(数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2			計	200	100	500 *	500 *	200			1200
		理	物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2(注★)	理	物基・物 化基・化 生基・生	セナ 試験	100	100	300	300	200			1000
応用生物科学科	前期 2月25日 34人	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	セナ 試験	100	50	200	200	200			750
		地歴 公民	世B、日B、地理B、 現社、倫、政経、「倫・政経」 } から1	理	物基・物 化基・化 生基・生	個別学 力検査			300 *	300 *				300
	後期 3月12日 12人	数	数Ⅰ・数Aと(数Ⅱ、数Ⅱ・数Bから1)の2			計	100	50	500 *	500 *	200			1050
		理	物、化、生(物基、化基、生基から2)から2(注☆)	理	物基・物 化基・化 生基・生	セナ 試験	100	50	300	300	300			1050
海洋生物環境学科	前期 2月25日 18人	国	国語	国	国語総合・現代文B・ 古典B	セナ 試験	100	50	200	200	100			650
		地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	個別学 力検査	150 *		150 *	150 *	150 *			150
	後期 3月12日 11人	数	数Ⅰ・数Aと(数Ⅱ、数Ⅱ・数Bから1)の2	理	物基・物 化基・化 生基・生	計	250 *	50	350 *	350 *	250 *			800
		理	物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2(注★)	外	二英Ⅰ・二英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ	セナ 試験	200		200	300	200			900
畜産草地科学科	前期 2月25日 36人	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	個別学 力検査			200 *	200 *				200
		地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」	理	物基・物 化基・化 生基・生	計	200	100	400 *	400 *	200			1100
	後期 3月12日 15人	数	(数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	理	物基・物 化基・化 生基・生	セナ 試験	200	100	200	200	200			900
		理	物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2(注★)			個別学 力検査				300				300
畜産草地科学科	前期 2月25日 36人	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B	計	200	100	200	500	200			1200
		地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、「倫・政経」	理	物基・物 化基・化 生基・生	セナ 試験	200	100	200	200	200			900
	後期 3月12日 15人	数	(数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2	理	物基・物 化基・化 生基・生	個別学 力検査				300				300
		理	物、化、生、地学(物基、化基、生基、地基から2)から2(注★)			計	200	100	200	500	200			1200

(注★) 次の①②よりいずれかを選択。①理科の基礎を付した科目2科目と理科の基礎を付していない科目1科目(同一名称科目(物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学)の選択は不可)、②理科の基礎を付していない科目2科目

(注☆) 次の①②よりいずれかを選択。①理科の基礎を付した科目2科目と理科の基礎を付していない科目1科目(同一名称科目(物基と物、化基と化、生基と生)の選択は不可)、②理科の基礎を付していない科目2科目

【注】26ページの注意事項を必ずお読みください。

④農学部（平成29年度志願倍率 5.1倍）

学科	日程及び 募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								
			科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計
獣 医 学 科	前 期 2月25日 20人	国	国語	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B 物基・物 化基・化 生基・生 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ 									

【注】下記の注意事項を必ずお読みください。

注意事項（農学部）

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- 1) 地歴・公民、及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は、解答順に「第1解答科目」及び「第2解答科目」として取り扱いします。
- 2) 地歴・公民を2科目受験しているときは、「第1解答科目」の成績を採用します。
- 3) 獣医学科後期日程において、数学を2科目受験しているときは、高得点の科目の成績を採用します。
- 4) 獣医学科後期日程において、理科を2科目受験しているときは、「第1解答科目」の成績を採用します。
- 5) 「外国語」において「英語」は、筆記試験、リスニングテストの両方を必ず受験してください（大学入試センターからリスニングテストを免除された者を除く）。筆記試験のみ受験した者（免除者を除く）及びリスニングテストのみ受験した者は英語を受験しなかった者として取り扱いします。
大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、筆記試験（200点）とリスニングテスト（50点）の合計得点250点満点を200点満点に圧縮後、各学科の配点に換算します。リスニングテストを免除された者は筆記試験（200点）を各学科の配点に換算します。
- 6) 大学入試センター試験の成績は、全ての学科において平成30年度のものに限り利用します。

【個別学力検査等】欄

- 1) 数学の出題範囲については以下のとおりとします。
 - ①数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは全範囲から出題します。
 - ②数学Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 2) 理科の出題範囲については以下のとおりとします。
 - ①物理基礎・物理は全範囲から出題します。
 - ②化学基礎・化学は全範囲から出題します。
 - ③生物基礎・生物は全範囲から出題します。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

配点に*印を付してある教科は選択教科を示します。

※第2志望について

農学部前期日程で獣医学科を第1志望とする場合は、畜産草地科学科を第2志望とすることができます。

⑤地域資源創成学部（平成29年度志願倍率 3.8倍）

学科	日程及び 募集人員	教科	大学入試センター試験の利用教科・科目名	個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
			科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の 区 分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計	
地域資源 創成学 科	前期 2月25日 55人	国 数	国語 (数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1)と (数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿 情算から1)の2	外	二英Ⅰ・二英Ⅱ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 〔1教科1科目〕	セ ン ター 試 験	200	200 ----- 100	200	100 ----- 200	200				900
						個別学 力検査					200	100		300	
						計	200	200 ----- 100	200	100 ----- 200	400	100		1200	
	後 期 3月12日 20人	外	英（【2つを含む】、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目・5教科8科目・6教科7科目・6教科8科目〕	その他	面接 小論文	セ ン ター 試 験	200	200 ----- 100	200	100 ----- 200	200				900
						個別学 力検査						100	200	300	
						計	200	200 ----- 100	200	100 ----- 200	200	100	200	1200	

- (注☆) 次の①②③④よりいずれかを選択。
- ①地歴・公民から2科目と理科の基礎を付した科目2科目、②地歴・公民から2科目と理科の基礎を付していない科目1科目、
 ③地歴・公民から1科目と理科の基礎を付した2科目と基礎を付していない科目1科目（同一名称科目（物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学）の選択は不可）、④地歴・公民から1科目と理科の基礎を付していない科目2科目
- 【注】下記の注意事項を必ずお読みください。

注意事項（地域資源創成学部）

- 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄
- 1）地歴・公民、及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は、解答順に「第1解答科目」と及び「第2解答科目」として取り扱います。
- 2）地歴・公民、理科の受験科目において、指定科目数を超過して受験しているときは、次のとおり成績を採用します。
- | | 受 験 科 目 数 | | 得点の採用方法 |
|---|-----------|---------|--|
| | 地歴
公民 | 理科 | |
| | | 理科① 理科② | |
| 2 | 2 | 1 | 『地歴・公民の第1解答科目』と
『「地歴・公民の第2解答科目」、 「理科①」の2科目」、「理科②」の1科目』のうち高得点の2つの成績』
※ただし、理科①及び理科②において同一名称を含む出題科目を同時に採用することはできない。 |
| | — | 2 | 『地歴・公民の第1解答科目』と『理科②の第1解答科目』と
『「地歴・公民の第2解答科目」、 「理科②」の第2解答科目』のうち高得点の1科目』 |
- ※理科①は基礎を付した科目、理科②は基礎を付していない科目
- 3）「外国語」において『英語』は、筆記試験、リスニングテストの両方を必ず受験してください（大学入試センターからリスニングテストを免除された者を除く）。筆記試験のみ受験した者（免除者を除く）及びリスニングテストのみ受験した者は英語を受験しなかった者として取り扱います。
 大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、筆記試験（200点）とリスニングテスト（50点）の合計得点250点満点を200点満点に圧縮後、学科の配点に換算します。リスニングテストを免除された者は筆記試験（200点）を学科の配点に換算します。
- 4）大学入試センター試験の成績は、平成30年度のものに限り利用します。

- 【個別学力検査等】欄
- 1）前期日程において、英語の資格・検定試験の一定以上のスコア（級）を取得している場合、個別学力検査における英語の得点として、満点を上限に加点します。詳細については28ページを参照してください。

3. 個別学力検査（英語）の免除について（工学部）

工学部の個別学力検査（前期日程）において、下表のとおり、英語の資格・検定試験の一定以上のスコア（級）を取得している場合、英語の試験を免除し、英語を満点とします。

申請方法については、11月中旬公表予定の「平成30年度一般入試学生募集要項」をご確認ください。

TOEIC (Listening・Reading)	TOEFL		GTEC		実用英語技能検定 (英検)
	Junior standard	iBT	for Students 3技能	CBT	
500	730	38	610	900	2級

4. 個別学力検査（英語）の加点について（地域資源創成学部）

地域資源創成学部の個別学力検査（前期日程）において、下表のとおり、英語の資格・検定試験の一定以上のスコア（級）を取得している場合、英語の得点として、満点を上限に加点します。

下表に該当するスコアを2つ以上取得している場合は1つのみ加点対象としますので、加点の高いものを1つ選択して申請してください。申請方法については、11月中旬公表予定の「平成30年度一般入試学生募集要項」をご確認ください。

加点	TOEIC (Listening・Reading)	TOEFL iBT	GTEC	実用英語技能検定 (英検)	IELTS
			for Students 3技能		
30点	730	80	700	準1級	5.5
20点	650	73	650		5.0

5. 個別学力検査会場について

宮崎大学の個別学力検査会場については、宮崎大学試験場（全学部・前、後期日程）及び東京試験場（農学部及び地域資源創成学部・前期日程のみ）の2カ所を設置します。

①宮崎大学試験場

1) 教育学部、工学部、農学部、地域資源創成学部

宮崎大学試験場：宮崎大学木花キャンパス（宮崎市学園木花台西1丁目1番地）

2) 医学部

宮崎大学試験場：宮崎大学清武キャンパス（宮崎市清武町木原5200番地）

②東京試験場（農学部及び地域資源創成学部・前期日程のみ）

個別学力検査前期日程において、**農学部（全学科）及び地域資源創成学部**は上記①に加え、東京都新宿区にも設置します。

農学部及び地域資源創成学部に出願する者は、出願時に受験の希望地を選択することとなります。東京試験場の希望者が収容人数を超えた場合、その超過した者は、宮崎大学試験場で受験することとなります。

なお、収容人数等の詳細については、11月中旬発表（予定）の一般入試学生募集要項にて公表します。

東京試験場：河合塾新宿校（東京都新宿区西新宿7丁目12-1）

6. 一般入試（前・後期日程）の入学試験問題について

本学のアドミッション・ポリシーを実現するため必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」への参加大学の入試過去問題を使用して出題することがあります。必ず使用するとは限りません（使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります）。

また、使用した過去問題については、入学試験終了後、受験者に分かるような形で公表します。

「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、下記のURLにて公表しています。

<http://www.nyushikakomon.jp/>

Ⅳ. 推薦入試

1. 各学部・学科課程（コース・専攻）の募集人員・出願要件・選抜方法等

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 す
実施学部・学科等名	教 育 学 部
	学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主免専攻
募 集 人 員	12人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 小学校教育に対する熱意を有し、教員としての適性があり、学習成績全体の評定平均値が4.0以上で、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験の成績、面接及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 ○ 大学入試センター試験の利用教科・科目名 ・国（国語） ・数（数Ⅰ，数Ⅰ・数Aから1）と （数Ⅱ，数Ⅱ・数B，簿，情報から1）の2 ・地歴・公民（世A，世B，日A，日B， 地理A，地理B，現社， 倫，政経，「倫・政経」）から1又は2 ・理（物，化，生，地学，（物基，化基，生基，地基から2）から1又は2） ・外（英（リスニングを含む），独，仏，中，韓から1） 〔5教科7科目，5教科8科目，6教科7科目又は6教科8科目〕
	（注☆）次の①②③④よりいずれか選択 ①地歴・公民から2科目と理科の基礎を付した科目2科目， ②地歴・公民から2科目と理科の基礎を付していない科目1科目， ③地歴・公民から1科目と理科の基礎を付した科目2科目と基礎を付していない科目1科目 （同一名称科目（物基と物，化基と化，生基と生，地基と地学）の選択は不可）， ④地歴・公民から1科目と理科の基礎を付していない科目2科目 ※指定した教科・科目（第1解答科目の指定を含む）を受験していないことが判明した場合，可否判定の対象とはなりません。 ※大学入試センター試験については，22ページの注意事項（教育学部）を必ず読んでください。 ※大学入試センター試験の成績は，平成30年度のものに限り利用します。
出 願 期 間	平成29年12月15日（金） ～ 12月19日（火）
選 抜 期 日	平成30年1月19日（金） ※受験者数によっては，長時間にわたることもあります。
合 格 発 表 日	平成30年2月7日（水）
そ の 他	推薦人員は，各高等学校から3人以内とします。

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 さ な い (専 門 学 科 枠)
実施学部・学科等名	教 育 学 部
	学校教育課程 小中一貫教育コース 中学校主免専攻
募 集 人 員	3人 ※選択できる教科及び募集人員 技術 2人 技術以外の教科 1人 (技術以外の教科は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭及び英語です。)
出 願 要 件	1. 高等学校の農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉、体育、音楽及び美術に関する学科・課程（総合学科を含む）を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 小学校及び中学校教育に対する熱意を有し、教員としての適性があり、学習成績の概評がA段階に属し、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 出願時に選択した教科の教育に対する熱意を有する者 4. 合格した場合は入学することを確約できる者 5. 入学後は、小中一貫教育コース中学校主免専攻において出願時に選択した教科を専修とすることを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接、小論文及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお、面接には高等学校で学習した内容及び出願時に選択した教科についての基礎的な口頭試問を含みます。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火）
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	推薦人員については、以下の通りです。 ・技術 各高等学校からの制限はありません。 ・技術以外の教科 技術を除く全教科をあわせて、各高等学校から2人以内とします。

区 分	センター試験を課さない（宮崎県教員希望枠）
実施学部・学科等名	教 育 学 部
	学校教育課程 教職実践基礎コース
募 集 人 員	5人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 小学校教育に対する熱意を有し、教員としての適性があり、学習成績の概評がA段階に属し、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 卒業後は、本学大学院教育学研究科に進学することを志望し、宮崎県の小学校の教員となることを希望している者 4. 合格した場合は入学を確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接、小論文及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） ※受験者数によっては、長時間にわたることもあります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	推薦人員は、各高等学校から2人以内とします。

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 す
実施学部・学科等名	教 育 学 部
	学校教育課程 発達支援教育コース 子ども理解専攻
募 集 人 員	3人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 小学校教育及び幼稚園教育に対する熱意を有し、教員としての適性があり、学習成績全体の評定平均値が4.0以上で、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験の成績、面接及び出願書類（推薦書、調査書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 ○ 大学入試センター試験の利用教科・科目名 ・ 国（国語） ・ 数（数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1）と （数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1）の2 ・ 地歴・公民（世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B、現社、 倫、政経、「倫・政経」）から1又は2 ・ 理（物、化、生、地学、（物基、化基、生基、地基から2）から1又は2） ・ 外（英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1） [5教科7科目、5教科8科目、6教科7科目又は6教科8科目] （注☆）次の①②③④よりいずれか選択 ①地歴・公民から2科目と理科の基礎を付した科目2科目、 ②地歴・公民から2科目と理科の基礎を付していない科目1科目、 ③地歴・公民から1科目と理科の基礎を付した科目2科目と基礎を付していない科目1科目 （同一名称科目（物基と物、化基と化、生基と生、地基と地学）の選択は不可）、 ④地歴・公民から1科目と理科の基礎を付していない科目2科目 ※指定した教科・科目（第1解答科目の指定を含む）を受験していないことが判明した場合、合否判定の対象とはなりません。 ※大学入試センター試験については、22ページの注意事項（教育学部）を必ず読んでください。 ※大学入試センター試験の成績は、平成30年度のものに限り利用します。
出 願 期 間	平成29年12月15日（金） ～ 12月19日（火）
選 抜 期 日	平成30年1月19日（金） ※受験者数によっては、長時間にわたることもあります。
合 格 発 表 日	平成30年2月7日（水）
そ の 他	推薦人員は、各高等学校から2人以内とします。

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	教 育 学 部
	学校教育課程 発達支援教育コース 特別支援教育専攻
募 集 人 員	3人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 特別支援教育に対する熱意を有し、教員としての適性があり、学習成績の概評がA段階に属し、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接、小論文及び出願書類（推薦書及び調査書）の結果を総合して選抜します。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） ※受験者数によっては、長時間にわたることもあります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	推薦人員は、各高等学校から2人以内とします。

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 す		
実施学部・学科等名	医 学 部		
	医 学 科		
募 集 人 員	一 般 枠	地 域 枠	地 域 特 別 枠
	20人 (宮崎県を含めた全国の高等学校を卒業見込みの者)	10人 (宮崎県内の高等学校を卒業見込みの者で、宮崎県の推薦のある者)	10人 (宮崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者、もしくは宮崎県外の高等学校を卒業見込みの者で、宮崎県の推薦のある者)
出 願 要 件	1. 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者 ただし、地域特別枠においては、宮崎県内の高等学校を平成29年3月卒業の者又は平成30年3月に卒業見込みの者、もしくは宮崎県外の高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者で、宮崎県内の小学校及び中学校のいずれかを卒業した者 2. 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、医師として活躍し得る能力・適性を有する者（④に該当する者については、調査書に④と標示してください。）で、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 地域枠、地域特別枠においては、宮崎県の地域医療に従事する者 4. 地域特別枠においては、「宮崎県医師修学資金」の貸与候補者としてふさわしい者 5. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。		
選 抜 方 法 等	一 般 枠	地 域 枠 ・ 地 域 特 別 枠	
	高等学校長の推薦書・調査書及び自己推薦書による書類審査、面接、大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。なお、面接に際しては、筆記による面接資料の作成を課すことがあります。	(第1次選考)	
		宮崎県からの推薦を得た者(第1次選考合格者)を第2次選考の対象者としてします。	
		(第2次選考)	
		面接を行い、第1次選考結果及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。なお、面接に際しては、筆記による面接資料の作成を課すことがあります。	
○ 大学入試センター試験の利用教科・科目名 ・国(国語) ・地歴・公民(世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、「倫・政経」)から1 ・数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、簿、情報から1)の2 ・理(物、化、生)から2 ・外(英(リスニングを含む)) [5教科7科目] ----- ※指定した教科・科目(第1解答科目の指定を含む)を受験していないことが判明した場合、合否判定の対象とはなりません。 ※大学入試センター試験については、23ページの注意事項(医学部)を必ず読んでください。 ※大学入試センター試験の成績は、平成30年度のものに限り利用します。			
出 願 期 間	平成29年12月1日(金) ～ 12月5日(火)		
選 抜 期 日	平成29年12月26日(火)※		
合 格 発 表 日	平成30年2月7日(水)		
そ の 他	(一般枠) 推薦人員は、各高等学校から2人以内とします。	(地域枠・地域特別枠) 推薦人員については、各高等学校からの制限はありません。	

※地域枠・地域特別枠は第2次選考日です。

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	医 学 部
	看 護 学 科
募 集 人 員	15人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者 2. 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属し、看護師・保健師として活躍し得る能力・適性を有する者（④に該当する者については、調査書に④と標示してください。）で、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校，特別支援学校の高等部，文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し，高等学校長の推薦書・調査書による書類審査，面接，小論文を総合して合格者を決定します。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火）
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	推薦人員は，各高等学校から2人以内とします。

区 分	センター試験を課さない						
実施学部・ 学 科 等 名	工 学 部						
	環境応用 化 学 科	社会環境 システム 工 学 科	環境ロボ ティクス 学 科	機械設計 システム 工 学 科	電子物理 工 学 科	電気システム 工 学 科	情報システム 工 学 科
募 集 人 員	12人	10人	10人	11人	5人	5人	5人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 ただし、 <u>電子物理工学科と電気システム工学科及び情報システム工学科</u> につい ては、 <u>高等学校の職業教育を主とする専門学科(総合学科は除く)</u> を平成29年4 月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者						
	2. 志望学科を専攻する意志が強く、人物・能力・素質・適性に特に優れ、各学科 が示す以下の要件を満たしていると認められ、出身高等学校長が責任を持って 推薦できる者						
	学 科			要 件			
	環境応用化学科,社会環境システム工学科, 機械設計システム工学科,電子物理工学科, 電気システム工学科,情報システム工学科			学習成績全体の評定平均値が4.0以上,あるい は理科又は数学の評定平均値が4.3以上			
	環境ロボティクス学科			学習成績全体の評定平均値が3.8以上,あるい は理科又は数学の評定平均値が4.0以上			
3. 合格した場合は入学することを確約できる者							
※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の 課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教 育施設の当該課程を含みます。							
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接、小論文及び出願書類 (推薦書、調査書及び志望理由書)の結果を総合して選抜します。 なお、面接には、高等学校等で学習した基礎的な内容についての口頭試問を含みます。						
出 願 期 間	平成29年11月1日(水) ～ 11月6日(月)						
選 抜 期 日	平成29年11月21日(火) 及び 11月22日(水) ※ただし、受験者数によっては、11月21日(火)の1日で終了する場合があります。						
合 格 発 表 日	平成29年12月1日(金)						
そ の 他	1. 各学科への推薦人員は、次のとおりとします。						
	学 科			推 薦 人 員			
	環境応用化学科,社会環境システム工学科, 環境ロボティクス学科,機械設計システム工学科, 電子物理工学科,電気システム工学科			各高等学校から2人以内			
	情報システム工学科			各高等学校から3人以内			
2. 上記出願要件に疑問がある場合は、志願者の履修課程表を添えて文書で 工学部教務・学生支援係に照会してください。(出願期間以前でも可) 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学工学部教務・学生支援係 電話(0985)58-2874							

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 す		
実施学部・	工 学 部		
学 科 等 名	電 子 物 理 工 学 科	電 気 シ ス テ ム 工 学 科	情 報 シ ス テ ム 工 学 科
募 集 人 員	7人	5人	6人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者		
	2. 各学科が示す以下の要件を満たしていると認められる者		
	学 科	要 件	
	電子物理工学科 電気システム工学科	志望学科を専攻する意志が強く、人物・能力・素質・適性に特に優れ、学習成績全体の評定平均値が3.8以上、あるいは理科の評定平均値が4.0以上であり、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者	
情報システム工学科	志望学科を専攻する意志が強く、人物・能力・素質・適性に特に優れ、数学と理科の学習成績が特に優秀であり、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者		
3. 合格した場合は入学することを確約できる者			
※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。			
選 抜 方 法 等	個別学力検査を免除し、大学入試センター試験、面接、小論文及び出願書類(推薦書、調査書及び志望理由書)の結果を総合して選抜します。		
	なお、面接には、高等学校等で学習した基礎的な内容についての口頭試問を含みます。		
	○大学入試センター試験の利用教科・科目名		
	・普通科あるいはこれに準ずる学科（総合学科を含む）を卒業又は卒業見込みの者 数学（数Ⅰ・数A）と（数Ⅱ・数B） [1教科2科目]		
・職業教育を主とする専門学科（総合学科は除く）を卒業又は卒業見込みの者 数学（数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1）と（数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1） [1教科2科目]			
※指定した教科・科目を受験していないことが判明した場合、合否判定の対象とはなりません。			
※大学入試センター試験の成績は、平成30年度のものに限り利用します。			
※本学の工学部のセンター試験を課さない推薦入試で不合格となった場合には、本学のセンター試験を課す推薦入試において、同学部・同一学科へのみ出願ができます。			
出 願 期 間	平成29年12月15日（金） ～ 12月19日（火）		
選 抜 期 日	平成30年1月19日（金）		
合 格 発 表 日	平成30年2月7日（水）		
そ の 他	1. 各学科への推薦人員に各高等学校からの人数制限はありません。		
2. 上記出願要件に疑問がある場合は、志願者の履修課程表を添えて文書で工学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可）			
照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学工学部教務・学生支援係 電話（0985）58－2874			

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	農 学 部
	植 物 生 産 環 境 科 学 科
募 集 人 員	10人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階に属する人のうち人物・能力・素質・適性等が特に優秀で出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校，特別支援学校の高等部，文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し，面接及び出願書類（調査書，推薦書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお，面接には高等学校等で学習した内容についての基礎的な口頭試問を含みます。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） 及び 11月22日（水） ※ただし，受験者数によっては，11月21日(火)の1日で終了する場合があります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	1. 推薦人員は，各高等学校から2人以内とします。 2. 上記出願要件に疑問がある場合は，農学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話（0985）58-3834

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	農 学 部
	森 林 緑 地 環 境 科 学 科
募 集 人 員	10人
出 願 要 件	1. 高等学校の普通科，総合学科，農林業及び工業（情報系，土木系）に関連のある学科を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階に属する人のうち人物・能力・素質・適性等が特に優秀で出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校，特別支援学校の高等部，文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し，面接及び出願書類（調査書，推薦書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお，面接には高等学校等で学習した内容についての基礎的な口頭試問を含みます。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） 及び 11月22日（水） ※ただし，受験者数によっては，11月21日（火）の1日で終了する場合があります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	1. 推薦人員は，各高等学校の対象となる学科から2人以内とします。 2. 上記出願要件に疑問がある場合は，志願者の履修課程表を添えて文書で農学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話（0985）58-3834

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	農 学 部
	応 用 生 物 科 学 科
募 集 人 員	11人
出 願 要 件	1. 高等学校の普通科，総合学科，農林水産業（食品関係も含む）及び工業（生物工学系）に関連のある学科を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階で，化学と生物に強い興味を持ち，かつ，人物・能力・素質・適性等について出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校，特別支援学校の高等部，文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し，面接及び出願書類（調査書，推薦書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお，面接を行う前に試問内容を提示し，面接でそれに関する口頭試問を行います。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） 及び 11月22日（水） ※ただし，受験者数によっては，11月21日（火）の1日で終了する場合があります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	1. 推薦人員は，各高等学校から2人以内とします。 2. 上記出願要件に疑問がある場合は，志願者の履修課程表を添えて文書で農学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話（0985）58-3834

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	農 学 部
	海 洋 生 物 環 境 学 科
募 集 人 員	4人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階で、海洋生物に強い興味を持ち、かつ、人物・資質・適性に優れ、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接及び出願書類（調査書、推薦書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお、面接には高等学校等で学習した内容についての基礎的な口頭試問を含みます。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） 及び 11月22日（水） ※ただし、受験者数によっては、11月21日（火）の1日で終了する場合があります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	1. 推薦人員は、各高等学校から2人以内とします。 2. 上記出願要件に疑問がある場合は、農学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話（0985）58-3834

区 分	センター試験を課さない
実施学部・学科等名	農 学 部
	畜 産 草 地 科 学 科
募 集 人 員	10人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成29年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階に属する人のうち生物学に強い興味を持ち、かつ、人物・能力・素質・適性等について出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、面接及び出願書類（調査書、推薦書及び志望理由書）の結果を総合して選抜します。 なお、面接には高等学校等で学習した内容についての基礎的な口頭試問を含みます。
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）
選 抜 期 日	平成29年11月21日（火） 及び 11月22日（水） ※ただし、受験者数によっては、11月21日（火）の1日で終了する場合があります。
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）
そ の 他	1. 推薦人員は、下記のとおりとします。 （1）「農業に関連のある学科（農業に関連のある科目を25単位以上履修する総合学科を含む）」は、各学科から2人以内とします。 （2）「農業に関連のない学科（農業に関連のある科目を25単位以上履修しない総合学科を含む）」は、これらの学科全体の中から1人とします。 2. 上記出願要件に疑問がある場合は、志願者の履修課程表を添えて文書で農学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話（0985）58-3834

区 分	センター試験を課さない	
実施学部・学科等名	地 域 資 源 創 成 学 部	
	地 域 資 源 創 成 学 科	
募 集 人 員	10名 (普通科あるいはこれに準ずる学科を卒業又は卒業見込みの者)	5名 (職業教育を主とする専門学科又は総合学科を卒業又は卒業見込みの者)
出 願 要 件	1. 高等学校普通科（あるいはこれに準ずる学科）を平成28年4月から平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 学習成績概評がA段階に属する者のうち人物・能力・素質・適性等が特に優秀で、出身高等学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合は入学することを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。	
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び出願書類（調査書、推薦書、志望理由書、資格・検定試験等の成績、各種大会等での成績）の結果を総合して選抜します。	
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）	
選 抜 期 日	平成29年11月23日（木） 及び 11月24日（金） ※ただし、受験者数によっては、11月23日（木）の1日で終了する場合があります。	
合 格 発 表 日	平成29年12月1日（金）	
そ の 他	1. 推薦人員は、以下のとおりとします。 （1）「普通科あるいはこれに準ずる学科」は、各高等学校等から2人以内 （2）「職業教育を主とする専門学科又は総合学科」は、各高等学校等から2人以内 2. 上記出願要件に疑問がある場合は、志願者の履修課程表を添えて文書で地域資源創成学部教務・学生支援係に照会してください。（出願期間以前でも可） 照会先：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学地域資源創成学部教務・学生支援係 電話（0985）58-7847	

2. 各学部・学科課程（コース・専攻）の配点

学部・学科等名		大学入試センター試験							小論文	面接	書類 審査	合計
		課す・ 課さない	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語 (注)				
教育学部・学校教育課程	小中一貫教育コース 小学校主専攻	課す	200	200 ----- 100		200	100 ----- 200	200	—	200		1100
	小中一貫教育コース 中学校主専攻	課さない	—	—		—	—	—	100	100		200
	教職実践基礎コース	課さない	—	—		—	—	—	80	120		200
	発達支援教育コース 子ども理解専攻	課す	200	200 ----- 100		200	100 ----- 200	200	—	400		1300
	発達支援教育コース 特別支援教育専攻	課さない	—	—		—	—	—	60	140		200
医学部	医学科	課す	200	100		200	200	200	—	※		900
	看護学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	100	※	200
工学部	環境応用化学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
	社会環境システム工学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
	環境ロボティクス学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
	機械設計システム工学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
	電子物理工学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
		課す	—	—	—	200	—	—	100	200		500
	電気システム工学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
		課す	—	—	—	200	—	—	100	200		500
	情報システム工学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	400		500
課す		—	—	—	200	—	—	100	200		500	
農学部	植物生産環境科学科	課さない	—	—	—	—	—	—	—	300	100	400
	森林緑地環境科学科	課さない	—	—	—	—	—	—	—	300	100	400
	応用生物科学科	課さない	—	—	—	—	—	—	—	200	100	300
	海洋生物環境学科	課さない	—	—	—	—	—	—	—	300	100	400
	畜産草地科学科	課さない	—	—	—	—	—	—	—	200	100	300
創地域学資源部	地域資源創成学科	課さない	—	—	—	—	—	—	100	150	50	300

※ 合否判定の重要な資料とします。

注) 大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、以下のとおり200点満点に圧縮後、各学科（課程）等の配点に換算します。

筆記試験及びリスニングテストの配点	リスニングテストを免除された者
筆記試験とリスニングテストの合計得点250点満点を200点満点に圧縮します。	筆記試験を200点満点とします。

V. A O入試

1. 募集人員・出願要件・選抜方法等

区 分	セ ン タ ー 試 験 を 課 す
実施学部・学科等名	教 育 学 部 学校教育課程 小中一貫教育コース 中学校主免専攻
募 集 人 員	12人 ※選択できる教科及び募集人員 音楽 2人 美術 2人 保健体育 4人 家庭 2人 英語 2人
出 願 要 件	1. 高等学校を平成30年3月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 小学校及び中学校教育に対する熱意を有する者 3. 選択した教科の教育に対する熱意を有する者 4. 合格した場合は入学することを確約できる者 5. 入学後は、小中一貫教育コース中学校主免専攻において、出願時に選択した教科を専修とすることを確約できる者 ※高等学校には中等教育学校、特別支援学校の高等部、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を含みます。
選 抜 方 法 等	(第1次選考) 面接・書類審査(出願書類:自己推薦書,志望理由書,実技・活動等に関する調書),各教科の定める個別審査(46ページ参照)により選抜します。なお,第2次選考に向けて課題を課す場合があります。 (第2次選考) 面接(プレゼンテーション・実技等を含む場合があります),第1次選考の結果及びセンター試験の結果を総合して選抜します。 ※第1次選考時に課した課題は,面接の基礎資料とします。 ○ 大学入試センター試験の利用教科・科目名 ・国(国語) ・外(英(リスニングを含む),独,仏,中,韓から1) ・数(数Ⅰ,数Ⅰ・数A,数Ⅱ,数Ⅱ・数B,簿,情報) ・地歴・公民(世A,世B,日A,日B,地理A,地理B,現社,倫,政経,「倫・政経」) ・理(物,化,生,地学,(物基,化基,生基,地基から2)) から1 [3教科3科目又は3教科4科目] ※数学,地歴・公民及び理科において,受験する科目のうち高得点の成績を採用します。 ※地歴・公民及び理科の基礎を付していない科目を2科目受験する場合は,解答順に「第1解答科目」及び「第2解答科目」として取り扱い,受験した科目のうち第1解答科目の成績を採用します。 ※理科において,理科の基礎を付した科目2科目と基礎を付していない科目1科目を受験しているときは,高得点の成績を採用します。 ※指定した教科・科目(第1解答科目の指定を含む)を受験していないことが判明した場合,合否判定の対象とはなりません。 ※大学入試センター試験については,22ページの注意事項(教育学部)を必ず読んでください。 ※大学入試センター試験の成績は,平成30年度のものに限り利用します。
出 願 期 間	平成29年11月1日(水) ～ 11月6日(月)
選 抜 期 日	(第1次選考) 平成29年11月25日(土)・26日(日)※ (第2次選考) 平成30年 1月20日(土)・21日(日)※ ※いずれの選考も出願状況により試験日が確定します。いずれかの1日,又は2日間での実施となります。
合 格 発 表 日	(第1次選考) 平成29年12月 1日(金) (最終) 平成30年 2月 7日(水)

2. 各教科の定める個別審査等の内容

教科名	個別審査の内容
音楽（※）	実技（下記も参照すること）
美術	実技
保健体育	実技
家庭	プレゼンテーション等
英語	英語によるコミュニケーション

※詳細は学生募集要項にて発表しますが、音楽を選択する場合、事前の準備のための時間を考慮し、下記の通り予告します。

・第1次選考

〔教科の定める個別審査〕

次の1. および2. をどちらも演奏する。

1. ピアノ 次の練習曲集から任意の1曲（暗譜）

C. Czerny 40番 練習曲集 op. 299

C. Czerny 50番 練習曲集 op. 740

F. Chopin 練習曲集 op. 10, op. 25（ただしop. 10-6, op. 25-7を除く）

2. 声楽、管楽器または弦楽器

声楽を選択する場合は、次の3曲から任意の1曲（暗譜の必要はない）。

Concone 50番 op. 9より 24番, 29番, 39番

※ 中声用または低声用のいずれかを出願時に選択すること。母音唱、階名唱、音名唱のいずれも可とする。

管楽器または弦楽器を選択する場合は、任意の練習曲（暗譜の必要はない）。

〔面接①〕

質問内容は、音楽に関する基礎的知識を含む。

・第2次選考

〔面接②〕

次の1. 2. 3. よりいずれかを選択して演奏した後、演奏した楽曲や、自身の演奏等についての質問に答える。

1. ピアノ J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethovenのソナタの中から、緩徐楽章および変奏曲楽章を除く任意の1つの楽章（暗譜。繰り返しおよびD. C. は省略）

2. 声楽 イタリア語またはドイツ語の歌詞による任意の1曲（原語。暗譜）

※ 原則として、原調で演奏すること。ただし、出版されている移調楽譜の使用も可とする。

3. 管楽器または弦楽器 任意の1曲（暗譜。ソナタまたは協奏曲の場合は1つの楽章）

※ 繰り返し省略。カデンツァ省略可。練習曲も可とするが、第1次選考と同一曲は不可。当日伴奏無し。

3. 配点

学部学科等名		大学入試センター試験							書類審査	面接①	面接②	各教科の定める個別審査	合計
		課す・課さない	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語(注)					
教育学部	学校教育課程 小中一貫教育コース 中学校主専攻	課す	200	200※		200※	200※	200	600	200	200	300	1300
	第1次選考									200		300	500
	第2次選考	課す	200	200※		200※	200※	200	600		200		800

※印は選択科目を示します。

注) 大学入試センター試験の外国語において英語（250点満点）とその他の外国語（200点満点）で配点が異なっているため、英語を選択した場合は、以下のとおり200点満点に圧縮後、各学科（課程）等の配点に換算します。

筆記試験及びリスニングテストの配点	リスニングテストを免除された者
筆記試験とリスニングテストの合計得点250点満点を200点満点に圧縮します。	筆記試験を200点満点とします。

VI. グローバル人材育成入試

グローバル人材育成入試（Global Human Resources Development Program）は、農学部において、日本の国籍を有しないものを対象とした、グローバルな人材を育成するための、新たな学部教育プログラム（名称：グローバル人材育成学部教育プログラム）を受講する学生を選抜するための入試です。本プログラムは、宮崎大学及び本学が指定した海外大学において、英語による講義を履修することによって学位取得を可能にするものです。専門教育では、「生物資源（Bioresources）」と「バイオテクノロジー（Biotechnology）」を必須コア科目群とし、これらに加えて、他の専門分野を選択科目として設定しています。

具体的には平成30年度の入学生は、同年4月に宮崎大学へ入学し、基礎教育科目および専門基礎科目を受講した後に、カセサート大学へ移動して、平成30年8月から平成32年5月まで引き続き基礎教育科目および専門基礎科目を受講します。その後、学力確認審査に合格した学生は宮崎大学へ戻り、生物資源とバイオテクノロジーを主体とする専門科目（卒業論文を含む）を受講して、平成34年3月に卒業します。プログラムの受講に伴う大学間の移動等に掛かる経費は、受講者の自己負担となります。

実施学部・学科等名	農 学 部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科
募 集 人 員	10人 ※ただし、上記の募集人員10名は、農学部一般入試（獣医学科を除く）の募集人員210名の中に含まれます。
出 願 要 件	次の1から3まですべてに該当し、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 日本の国籍を有しない者 2. 次のいずれかに該当する者 1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者（平成30年3月修了見込みの者を含む。）又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 2) 国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格、ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格のいずれかを有する者で平成30年3月31日までに18歳に達する者 3. 出入国管理及び難民認定法に基づく大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者 ※日本の国籍を有しない者であっても日本の高等学校又は中等教育学校の3年間の教育課程を履修し、かつ卒業した者（平成30年3月卒業見込みの者を含む。）については、一般入試によることとし、グローバル人材育成入試には出願できません。 ※「留学」の在留資格を有しない（取得しない）場合は、「留学生」としての取扱いができず、留学生に対する各種補助制度を利用できません。

選 抜 方 法 等	(第1次選考) 出願書類(入学志願書, 成績証明書, 推薦書, 言語能力証明書など)の書類選考により選抜を行います。 (第2次選考) 第1次選考の合格者のみに対し, 複数の教員で英語による個人面接(20分程度で口頭試問を含む)を行い, 本プログラムの受講に関わる基礎能力及び適性等にもとづく選抜を行います。
出 願 期 間	平成29年11月10日(金) ~ 11月21日(火)
選 抜 期 日	(第1次選考) 書類選考 (第2次選考) 平成29年12月13日(水) ※試験場は宮崎大学バンコク・オフィス(タイ)になります。
合 格 発 表 日	(第1次選考) 平成29年12月 1日(金) (最終) 平成29年12月22日(金)
そ の 他	・詳細については, 9月中旬発表(予定)の「平成30年度グローバル人材育成入試学生募集要項」を参照してください。募集要項については, 農学部ホームページ(http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/english/index.html)にて発表します。 問い合わせ先: 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部教務・学生支援係 電話(0985)58-3834

Ⅶ. 帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試

1. 帰国子女入試

実施学部・ 学科等名	教育学部 学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主専攻 中学校主専攻 教職実践基礎コース 発達支援教育コース 子ども理解専攻 特別支援教育専攻	農学部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応用生物科学科 海洋生物環境学科 畜産草地科学科 獣医学科	地域資源創成学部 地域資源創成学科
募集人員	若 干 人		
出願要件	日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けた者で、次の各号のいずれかに該当する者 1. 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者又は卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 注）外国に設置されたものであっても日本の学校教育に準拠した教育を実施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けた者とはみなしません。 2. 外国において、国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格、ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格のいずれかを平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者		
選抜方法等	大学入試センター試験及び個別学力検査は免除し、面接、小論文及び出願書類の結果を総合して選抜します。		
出願期間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）		
選抜期日	平成29年11月22日（水）		
合格発表日	平成29年12月 1日（金）		
そ の 他	・ 詳細については、9月中旬発表（予定）の「平成30年度帰国子女入試学生募集要項」を参照してください。 ・ 募集要項の請求は、53ページをご覧ください。		

2. 社会人入試

実施学部・学科等名	農 学 部 植物生産環境科学科 森林緑地環境科学科 応 用 生 物 科 学 科 海洋生物環境学科 畜 産 草 地 科 学 科	地域資源創成学部 地 域 資 源 創 成 学 科
募 集 人 員	若 干 人	
出 願 要 件	平成30年4月1日現在で、次の1から3のいずれかに該当する者のうち、社会人経験を5年以上【注を参照】有する年齢23歳以上の者 1. 高等学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. その他、学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 ※ 上記3に該当する者のうち、本学の個別の入学資格審査により入学資格の認定を受けようとする者は、宮崎大学学生支援部入試課にお問い合わせください。 なお、詳細は本学ホームページ（http://www.miyazaki-u.ac.jp/）「入試情報」→「入学資格審査」にも掲載してありますので、ご参照ください。 【注】（1）就業しながら、定時制又は通信制の高等学校に在学した期間は、社会人の経験に含めます。 （2）家事・家業・パート等の従事期間も社会人経験に含めます。	
選 抜 方 法 等	大学入試センター試験及び個別学力検査は免除し、面接及び出願書類の結果を総合して選抜します。	
出 願 期 間	平成29年11月1日（水） ～ 11月6日（月）	
選 抜 期 日	平成29年11月22日（水）	
合 格 発 表 日	平成29年12月 1日（金）	
そ の 他	・ 募集要項請求の際に、出願資格を確認したい場合は、履歴書（学歴は初等教育から記載し、職歴についても空白期間のないように記載すること。）を添えて申し込んでください。（様式は自由） ・ 詳細については、9月中旬発表（予定）の「平成30年度社会人入試学生募集要項」を参照してください。 ・ 募集要項の請求は、53ページをご覧ください。	

3. 私費外国人留学生入試

(1) 出願資格

独立行政法人日本学生支援機構が6月と11月に実施する「平成29年度日本留学試験」において、下記「(2)選抜方法等」に示す各学部・学科等が指定する教科・科目を受験した者で、次の①から④まですべてに該当する者

① 日本の国籍を有しない者

② 次のいずれかに該当する者

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者（平成30年3月修了見込みの者を含む。）又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

イ 国際バカロレア資格、アビトゥア資格、バカロレア資格、ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格のいずれかを有する者で平成30年3月31日までに18歳に達する者

③ 出入国管理及び難民認定法に基づく大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者

④ 農学部植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、畜産草地科学科及び獣医学科については、出願以前2年以内にTOEFLを受験している者

【注意】 日本の国籍を有しない者であっても日本の高等学校又は中等教育学校の3年間の教育課程を履修し、かつ卒業した者（平成30年3月卒業見込みの者を含む。）については、一般入試によることとし、この私費外国人留学生入試には出願できません。

(2) 選抜方法等

入学者の選抜は、独立行政法人日本学生支援機構が6月と11月に実施する「平成29年度日本留学試験」のいずれかの成績並びに本学が行う学力試験等（学力検査、日本語による小論文、面接、実技等）の成績、TOEFLの成績（農学部植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、畜産草地科学科及び獣医学科のみ）及び最終出身学校の各成績の結果を総合して選抜します。

◎「日本留学試験」出題教科・科目・・・**理系：日本語、理科、数学を受験してください。**
文系：日本語、総合科目、数学を受験してください。

学部	学科・課程等	日 本 留 学 試 験			学 力 試 験 等
		利 用 「試験日」	利用「教科・科目」	出題言語の指定 (日本語以外の科目)	
教育学部	学校教育課程 小中一貫教育コース 小学校主専攻 中学校主専攻 教職実践基礎コース 発達支援教育コース 特別支援教育専攻 子ども理解専攻	6月・11月 実施分の いずれかの 成績を 利用	①理系又は文系の いずれかを受験 すること ②理科の科目選択 は指定しない ③数学のコース選 択は指定しない	出題言語を指定する 「日本語によって出題され たものを受験すること」	小論文(日本語)、面接
医学部	医学科		①理系を受験する こと ②理科の科目選択 は指定しない ③数学はコース2 を受験すること	出題言語を指定する 「日本語によって出題され たものを受験すること」	学力検査 数学 …数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 外国語 …コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ 面接
工学部	環境応用化学科 社会環境システム工学科 環境ロボティクス工学科 機械設計システム工学科 電子物理工学科 電気システム工学科 情報システム工学科		①理系を受験する こと ②理科の科目選択 は指定しない ③数学はコース2 を受験すること	出題言語を指定しない	小論文(日本語)、面接
農学部	植物生産環境科学科 ※ 応用生物科学科 海洋生物環境科学科		①理系を受験する こと ②理科の科目選択 は指定しない ③数学のコース選 択は指定しない	出題言語を指定する 「日本語によって出題され たものを受験すること」	小論文(日本語)、面接
	森林緑地環境科学科 ※※※ 畜産草地科学科 ※※※ 獣医学科 ※※※		①理系を受験する こと ②理科の科目選択 は指定しない ③数学のコース選 択は指定しない	出題言語を指定しない	（応用生物科学科では、面接を行 う前に英語、化学及び生物の試問 内容を提示し、面接でそれに関す る口頭試問を行います。）
創地 地域 学資 部源	地域資源創成学科		①理系又は文系の いずれかを受験 すること ②理科の科目選択 は指定しない ③数学のコース選 択は指定しない	出題言語を指定しない	小論文(日本語)、面接

※ 出願資格として、TOEFLを受験している者。

(3) 出 願 期 間 … 平成30年1月17日（水） ～ 平成30年1月19日（金）

(4) 選 抜 期 日 … **医学部以外**：平成30年2月8日（木） **医学部**：平成30年2月25日（日）

(5) 合格発表日 … **医学部以外**：平成30年2月27日（火） **医学部**：平成30年3月7日（水）

(6) 選抜方法等の詳細な内容は、9月中旬発表（予定）の「平成30年度私費外国人留学生入試学生募集要項」を参照してください。

学生募集要項の請求は、53ページをご覧ください。

VIII. 障害等のある入学志願者の事前相談

下表のような障害等があり、受験上及び修学上の配慮を必要とする者（教育学部においては、附属学校園及び公立学校での教育実習等に際して配慮が必要と思われる者、医学部においては、附属病院及び関連教育病院等での臨床実習に際して支障があると思われる者、地域資源創成学部においては、インターンシップを含む実践教育に際して支障があると思われる者を含む）は、**出願書類提出前に本学学生支援部入試課へ相談**してください。

なお、相談の期限は、各入試の出願開始日の1ヶ月前までとします。

ただし、期限を過ぎている場合又は出願締切後に、不慮の事故のため配慮を必要とされる場合については、早急に本学学生支援部入試課へご連絡ください。

区 分	障 害 の 程 度
①視 覚 障 害	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のも
②聴 覚 障 害	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のも
③肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のも 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のも
④病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のも 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のも
⑤発 達 障 害	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等のため配慮を必要とするもの
⑥そ の 他	①～⑤の区分以外の者で配慮を必要とするもの

- 備考 1. 視力の測定は、万国式試視力表によるものとし、屈折異常があるものについては、矯正視力によって測定する。
2. 聴力の測定は、日本工業規格によるオーディオメータによる。

IX. 学生募集要項の発表及び請求方法

1. 発表（予定）時期

募集人員，出願期間，学力検査等の実施期日，試験場，教育学部の一部の専攻で実施する実技の内容等入学者選抜に関する細目は，学生募集要項で発表します。

一般入試学生募集要項（願書を含む）	11月中旬
推薦入試・AO入試学生募集要項（願書を含む）	9月中旬
医学部医学科（地域枠推薦・地域特別枠推薦）募集要項（願書を含む）	9月中旬
帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試学生募集要項（願書を含む）	9月中旬
グローバル人材育成入試学生募集要項（注）	9月中旬

（注）グローバル人材育成入試学生募集要項については，農学部ホームページ（<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/english/index.html>）にて発表します。

2. 学生募集要項等の請求方法

（1）「テレメール」で請求する場合

①テレメールWebでの請求

本学のホームページ（<http://www.miyazaki-u.ac.jp/>）にアクセスし，「入試情報」→「大学案内・募集要項などの請求方法」の項目から請求してください。

②インターネット（パソコン・スマホ・携帯電話）または自動音声応答電話で請求する場合

ア）下のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

インターネット （パソコン・スマホ・ケータイ）	http://telemail.jp	バーコードからアクセスした場合は 資料請求番号の入力は不要。 
自動音声応答電話	IP電話 050-8601-0101 （24時間受付） ※一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。 ※住所氏名等の登録時はゆっくり・はっきりとお話ください。登録された音声の不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。	

イ）請求を希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

資料名	資料請求番号	料金（送料含）
大学案内	567992	215円
入学者選抜要項	587992	215円
入学者選抜要項及び大学案内	568002	250円
一般入試学生募集要項	588002	250円
一般入試学生募集要項及び大学案内	548102	300円
推薦入試・AO入試学生募集要項（地域枠推薦・地域特別枠推薦は含まず）	588012	250円

ウ）ガイダンスに従ってお届け先を登録してください。テレメールのパスワードをお持ちの方は登録不要です。

※請求から1～2日後に資料が届きます。ただし，受付時間や地域，配達事情によっては3日以上かかる場合があります。1週間以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお，発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※料金のお支払いは資料到着後の後払いです。お届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上，資料到着後一週間以内に表示料金をお支払いください。なお，支払い手数料が別途必要です（コンビニ支払いは86円，ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円，窓口扱いは130円，ケータイ払いは50円，クレジットカード払いは50円）。また，複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。

※テレメールによる請求方法についての問い合わせ

テレメールカスタマーセンター（TEL：050-8601-0102） 平日9：30～18：00

(2) 大学情報センターの「モバっちょ」での請求方法

- ①「モバっちょ」にアクセスして、ご希望の資料を選択してお申し込みください。

インターネット (パソコン・スマホ・携帯電話)	http://djcm-b.jp/miyazaki-u3/	
----------------------------	---	---

②送料

資料名	送料	備 考
大学案内	200円	※お支払い時、下記手数料が必要です(資料毎) ・携帯払い・スマホ払い・クレジットカード決済:50円 ・コンビニ後払い:126円
一般入試学生募集要項	200円	
一般入試学生募集要項+大学案内	300円	

※「モバっちょ」による請求についての問い合わせ
モバっちょカスタマーセンター(TEL:050-3540-5005) 平日10:00~18:00

(3) 宮崎大学へ請求する場合

①入試課窓口での請求

宮崎大学事務局棟1階の入試課窓口で配付します。

②郵送による請求

必要な資料名「◆◆請求」を朱書した返信用封筒(※1)を本学入試課宛(※2)に送付してください。(◆◆には一般入試, 推薦・AO入試, 帰国子女入試, 私費外国人留学生入試などを記入願います。)

また, 不明な点があった場合, こちらから連絡する可能性もありますので, 連絡のとれる連絡先(氏名・電話番号)を書いたメモ書きも同封してください。

※1 返信用封筒には, 「角形2号封筒240mm×332mm(A4版が入る大きさ)」で, 送付先の住所, 氏名及び郵便番号を明記し, 下記の送料分の郵便切手を貼ってください。「大学案内請求」「一般入試募集要項請求」等の朱書を忘れないようにしてください。

※2 送付先: 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学入試課

郵送料金の切手(料金が不足する場合は, 不足分着払いで発送します。)

- ・380円…一般入試募集要項, 推薦・AO入試募集要項, 地域枠・地域特別枠推薦入試募集要項
- ・250円…大学案内, 帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試募集要項, 選抜要項

※この料金は「角形2号封筒240mm×332mm」で, 送付する場合の料金です。「角形2号封筒240mm×332mm」以外で送付する場合, 料金が変わることもありますので郵便局等でご確認をお願いいたします。

※宮崎大学への請求についての問い合わせ
宮崎大学学生支援部入試課 (TEL:0985-58-7977) 平日9:00~17:00

X. 卒業後の進路・資格等

1. 教育学部

◎ 教育職員免許状等

免許状 課程コース等			小学校教諭 普通免許状	中 学 校 教 諭 普 通 免 許 状	高等学校教諭 普通免許状	特別支援学校 教諭普通免許状	幼稚園教諭 普通免許状
学 校 教 育 課 程	小中一貫教育 コース	小学校主免専攻	1 種	2 種 1 種	1 種☆	2 種	2 種又は 1 種
		中学校主免専攻	2 種 1 種	1 種	1 種☆	2 種	2 種
	教職実践基礎 コース		1 種	2 種又は 1 種	1 種☆	2 種	2 種又は 1 種
	発達支援教育 コース	子ども理解専攻	1 種	2 種		2 種	1 種
		特別支援教育専攻	1 種	2 種		1 種	2 種又は 1 種
(備考)							
1. 学校教育課程の欄の太字は卒業時に取得できる免許，細字は取得可能免許の例です。 なお，☆の高校「地理歴史」，「公民」，「工業」については，指定された単位の修得が必要です。							
2. 学校教育課程で取得できる中学校及び高等学校の免許教科は次のとおりです。 中 学 校：国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語 高等学校：国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・工業・家庭・英語							
3. 本学で取得できる特別支援学校の免許の領域は，知的障害・肢体不自由・病弱の 3 領域です。 聴覚障害・視覚障害の領域については，取得できません。							
4. 学芸員の資格：所定の単位を修得し，申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。							
5. 学校図書館司書教諭の資格：司書教諭講習を受講し，必要単位を修得すれば「修了証書」が交付されます。							

◎ 大学院（教育学研究科）

学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に，教職大学院制度に基づいて学校教育に関する高度の学識及び実践力・応用力を備えた各学校種の新人教員・中堅教員（ミドルリーダー）・中核的中堅教員（スクールリーダー）の育成を目的とする教職実践開発専攻（専門職学位課程）とメンタルヘルスや特別支援教育及び日本語支援教育の専門家を育成する学校教育支援専攻（修士課程）が設けられています。修了者には，教職修士（専門職）又は修士（教育学）の学位が授与されます。

2. 医学部

◎ 卒業後の資格

1. 医学科（修業年限6年）を卒業し、医師の国家試験に合格した人には、本人の申請により免許証が与えられます。

2. 看護学科の卒業要件を満たし、卒業が見込まれる人は、看護師の国家試験の受験資格が得られます。また、保健師課程を選択し必要な単位を修得した人は、保健師の国家試験の受験資格が得られます。国家試験に合格した人には、本人の申請により免許証が与えられます。

なお、保健師免許取得後、申請により養護教諭二種免許が得られますが、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の単位取得が必要となります。

※保健師課程を選択するには、2年次後学期に行う選考試験に合格する必要があります。

※助産師教育については、看護学研究科（修士課程）において行っています。

◎ 大 学 院

1. 看護学研究科（修士課程）

本研究科は、問題解決能力を有する看護実践者の育成と看護学の教育・研究者の素地育成を目的として、『看護学専攻2コース（研究者育成コース、実践看護者育成コース）7領域（基盤システム看護学、地域・精神看護学、成人・老年療養支援看護学、母子健康看護学、がん看護、実践助産学開発、実践助産学）で構成された看護学研究科』で各種の医療機関、保健・福祉施設、行政、教育・研究機関などにおいて、看護実践・指導・研究・教育ができる人材の育成を使命としています。修了者には、修士（看護学）の学位が授与されます。

2. 医学獣医学総合研究科（修士課程・博士課程）

教育研究の充実と進化を深めるために、医学獣医学総合研究科博士課程医学獣医学専攻には、3コース（①高度臨床医育成コース、②高度獣医師育成コース、③研究者育成コース）があります。本研究科は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の育成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

本研究科に原則として4年以上在学し、指導教員の下に、所要の単位を修得するとともに、学位審査及び試験に合格した人には、博士（医学、獣医学のいずれか）の学位が授与されます。

また、医学獣医学総合研究科修士課程医科学獣医科学専攻には、3コース（生命科学研究者育成コース、高度医療関連技師・サービスイノベーション人材養成コース、生命倫理コーディネーターコース）があります。

本専攻は、医学と獣医学を融合した高度な研究活動を実践している本研究科博士課程への進学を視野に入れた教育研究を行うものであり、また、地域社会の要請に応えうる人材の輩出を考慮した教育研究を目指すものです。そして、本専攻での修学は、医学・獣医学分野及び医療社会科学分野の研究と教育、あるいは高度な診療支援に携われる人材の養成を主眼としており、生命科学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。修了者には、修士（医科学、動物医科学のいずれか）の学位が授与されます。

3. 工学部

◎ 卒業後の資格

全学科（7学科）とも、

- 1) 教育職員免許法に定める科目の所要単位を修得した人には、高等学校教諭1種（工業）免許状取得の資格が与えられます。
- 2) 博物館法施行規則に定める科目及び工学部の定める科目の所要単位を修得した人には、学芸員資格取得のための「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
また、以下の学科の卒業生は次の資格を取得することができます。

1. 環境応用化学科

- 教育職員免許法に定める科目の所要単位を修得した人は、高等学校教諭1種（理科）の免許状取得の資格が与えられます。ただし、学科の卒業に必要な単位を取得し、卒業することが条件になります。
- 卒業後2年以上の産業安全の実務を経験し、厚生労働大臣の定める研修を修了すれば、安全管理者になる資格が得られます。
- 甲種危険物取扱者（第1類～第6類すべての種類の危険物の取り扱いと立ち会いが認められる資格）の受験資格が得られます。なお、大学において化学に関する授業科目を15単位以上修得した時点で受験できるので、在学中に資格を取得することも可能です。
- 学科卒業後、厚生労働省令で定める学校で応用化学に関する学課を修了した人として、毒物劇物を取り扱う製造所、営業所又は店舗毎に専任が必要な「毒物劇物取扱責任者」となる資格を有します。

2. 社会環境システム工学科

- 測量に係る所定の科目（測量学I、測量学II、測量学実習I、測量学実習II）の単位を修得した人は、卒業後に所管機関に申請することによって「測量士補」の資格が与えられます。

3. 機械設計システム工学科

- 機械設計技術者（3級）を受験できる資格があります。
また、機械設計技術者（1・2級）に対して、それぞれ必要な実務経験を経て受験できます。
ただし、工学系学部卒業生については、実務経験の年数の短縮が措置されています。
- その他、エネルギー管理士など、多くの資格が本学科のカリキュラムに関連しています。

4. 電子物理工学科

- 教育職員免許法に定める科目の所要単位を修得した人は、高等学校教諭1種（理科）の免許状取得の資格が与えられます。ただし、学科の卒業に必要な単位を取得し、卒業することが条件になります。

5. 電気システム工学科

- 本学科で在学中に所定の科目を修得した上で卒業し、経済産業省の定める一定年数の実務経験を積み、経済産業大臣に申請すれば第一種、第二種または第三種電気主任技術者免状を取得することができます。

◎ 大 学 院

1. 大学教育の基礎の上に高度の専門的な知識を修得し、工学の発展に寄与できる技術者、研究者及び教育者を養成する工学研究科（修士課程）が設けてあり、修了者には修士（工学）の学位が授与されます。
2. 農学工学総合研究科は、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。修了者には博士（農学、工学、学術のいずれか）の学位が授与されます。

4. 農学部

◎ 卒業後の資格

関連科目を履修することにより、下記の表に示すような資格や免許、これらの受験資格あるいは受験上の恩恵を得ることができます。

植物生産環境科学科	高等学校教諭一種免許状（農業・理科），学芸員，食品衛生管理者・食品衛生監視員，普及指導員，自然再生士補，JGAP指導員
森林緑地環境科学科	高等学校教諭一種免許状（農業・理科），学芸員，普及指導員，林業普及指導員，樹木医補，測量士補，森林情報士2級，環境再生医(初級)，2級ビオトープ計画管理士・施工管理士，自然再生士補
応用生物科学科	高等学校教諭一種免許状（農業・理科），学芸員，食品衛生管理者・食品衛生監視員，毒物劇物取扱責任者，普及指導員
海洋生物環境学科	高等学校教諭一種免許状（水産・理科），学芸員，食品衛生管理者・食品衛生監視員，エマージェンシーファーストレスポnder，潜水土免許
畜産草地科学科	高等学校教諭一種免許状（農業・理科），学芸員，普及指導員，食品衛生管理者・食品衛生監視員，家畜人工授精師，実験動物1級技術者，飼料製造管理者
獣医学科	獣医師，高等学校教諭一種免許状（農業），学芸員，食品衛生管理者・食品衛生監視員

（備考）

1. 高等学校教諭一種免許状（農業・理科・水産）：別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
2. 学芸員の資格：所定の単位を修得し、申請すれば「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
3. 食品衛生管理者・食品衛生監視員，飼料製造管理者：卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
4. 普及指導員，林業普及指導員：資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
5. 測量士補，森林情報士2級，樹木医補，環境再生医(初級)，自然再生士補，家畜人工授精師：所定の科目の単位を修得し、その他所定の要件を満たした人は、卒業後に資格を得ることができます。
6. JGAP指導員：所定の科目の試験において、定められた成績を修め、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。
7. 2級ビオトープ計画管理士・施工管理士：所定の科目の単位を修得し、その他所定の要件を満たした人は、資格試験の一部が免除されます。
8. 毒物劇物取扱責任者：卒業後、勤務先の毒物劇物を取り扱う製造所、営業所または店舗で必要とされる場合に、この資格をもつことができます（受験等の必要はありません）。
9. 実験動物1級技術者：所定の科目の単位を修得すれば、4年次に受験することができます。学科及び実地の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物1級技術者の資格を得ることができます。
10. エマージェンシーファーストレスポnder，潜水土免許：資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。在学中に受験して資格を得ることができます。
11. 獣医師：所定の科目の単位を修得すれば、獣医師国家試験の受験資格を得ることができます。

◎ 大 学 院

1. 大学教育の基礎の上に高度の専門的な知識と技能を修めるとともに、農業の近代化に即応する高度な技術者・研究者及び教育者を養成する農学研究科（修士課程）が設けてあり、修了した人には、修士（農学，水産学，学術のいずれか）の学位が授与されます。

2. 平成19年4月1日から「宮崎大学大学院農学工学総合研究科（博士後期課程）」が新たに設置されました。

農学工学総合研究科は、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。修了者には博士（農学，工学，学術のいずれか）の学位が授与されます。

3. 獣医学科卒業生については、平成22年4月1日から「宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科（博士課程）」が新たに設置されました。医学獣医学総合研究科は、医学部と獣医学科が連携した大学院で、高度獣医療を実践する臨床獣医師ならびに国際的に活躍できる研究者を目指す高次教育を行います。修了者には、博士（獣医学，医学のいずれか）の学位が授与されます。

また、平成26年4月1日から「宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科（修士課程）」が設置され、医学・獣医学分野及び医療社会学分野の研究と教育、あるいは高度な診療支援に携われる人材の養成を主眼とし、専門分野に偏らない幅広い基盤的知識の習得、それを基礎とした研究能力を養う教育を行います。修了者には修士（医科学，動物医科学のいずれか）の学位が授与されます。

5. 地域資源創成学部

◎ 想定される就職先

1. 企業マネジメントコース

製造業，食品加工業，醸造業，銀行，事業承継，起業など民間企業，ビジネス 等

2. 地域産業創出コース

6次産業化事業，観光業，フードビジネス関連企業，商社，商工団体，農業団体，流通業 等

3. 地域創造コース

国・自治体，経済団体，商工会議所，商工会，NPOなどパブリック組織

XI. 統計資料

平成29年度 志願者数

	志 願 者 数					
	教育学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創成学部	合計
北海道	1	8	2	12	0	23
東北	0	2	1	8	2	13
関東	9	148	38	121	5	321
中部	16	62	77	109	4	268
近畿	20	143	110	158	5	436
中国	25	54	89	94	9	271
四国	17	22	44	47	6	136
九州	522	754	1,559	777	302	3,914
福岡	42	115	259	145	15	576
佐賀	13	24	81	40	2	160
長崎	39	49	192	42	11	333
熊本	61	65	190	71	12	399
大分	27	32	145	70	12	286
宮崎	290	351	496	310	213	1,660
鹿児島	47	92	185	88	36	448
沖縄	3	26	11	11	1	52
その他	0	7	23	34	0	64
合 計	610	1,200	1,943	1,360	333	5,446

平成29年度 入学者数

	入 学 者 数					
	教育学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創成学部	合計
北海道	1	0	0	3	0	4
東北	0	0	0	0	1	1
関東	3	22	7	18	0	50
中部	4	9	11	22	2	48
近畿	6	21	22	29	1	79
中国	3	2	15	20	3	43
四国	2	1	9	10	2	24
九州	107	114	308	180	89	798
福岡	3	16	47	33	3	102
佐賀	4	4	16	5	1	30
長崎	5	5	38	15	3	66
熊本	9	11	40	14	6	80
大分	8	2	27	17	4	58
宮崎	68	66	106	72	62	374
鹿児島	9	5	33	21	9	77
沖縄	1	5	1	3	1	11
その他	0	1	4	12	0	17
合 計	126	170	376	294	98	1,064

平成28年度 志願者数

	志 願 者 数					
	教育学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創成学部	合計
北海道	0	4	5	8	0	17
東北	0	3	1	16	0	9
関東	13	129	28	82	2	254
中部	19	52	45	82	1	199
近畿	21	84	74	152	4	335
中国	12	23	101	102	4	242
四国	10	15	69	41	3	138
九州	474	545	1,650	822	249	3,740
福岡	51	83	257	187	14	592
佐賀	9	11	85	27	1	133
長崎	31	27	224	57	12	351
熊本	60	55	185	69	18	387
大分	25	19	139	81	7	271
宮崎	232	279	541	313	181	1,546
鹿児島	64	58	215	74	16	427
沖縄	2	13	4	14	0	33
その他	0	8	17	26	0	51
合 計	549	863	1,990	1,331	263	4,996

平成28年度 入学者数

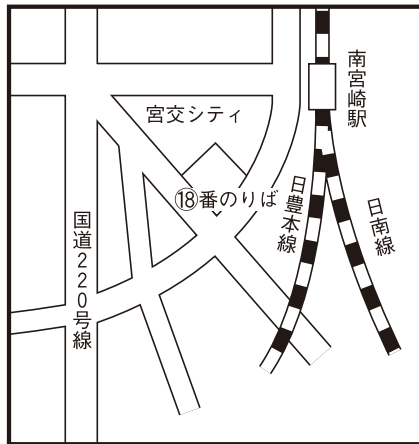
	入 学 者 数					
	教育学部	医学部	工学部	農学部	地域資源創成学部	合計
北海道	0	1	3	1	0	5
東北	0	0	0	5	0	5
関東	3	22	4	14	0	43
中部	2	6	12	19	1	40
近畿	6	14	19	28	1	68
中国	2	3	20	19	1	45
四国	2	2	9	6	1	20
九州	112	122	302	185	92	813
福岡	7	12	49	47	4	119
佐賀	3	3	13	2	1	22
長崎	6	5	36	11	6	64
熊本	11	8	30	19	4	72
大分	6	1	17	19	2	45
宮崎	69	79	116	74	72	410
鹿児島	9	11	40	10	3	73
沖縄	1	3	1	3	0	8
その他	0	0	3	10	0	13
合 計	127	170	372	287	96	1,052

※志願者数については、「一般入試」、「推薦入試（地域枠含む）」、「AO入試」、「グローバル人材育成入試」、「帰国子女入試」、「社会人入試」及び「私費外国人留学生入試」における志願者数

平成29年度 宮崎大学入学試験実施状況

学部	学科・課程（コース）専攻			定員	日程等	募集 人員	志願者		受験者	合 格 者 ※1					入学者	左記以外の 入学者※2	入学者合計				
							人員	倍率		合格者	満点	最高点	最低点	平均点			男	女	合計		
教育学部	学校 教育課程	小 学 校 主 免	2／3型入試	50	前期	20	87	4.4	71	23	1,100	779	637	686	20		20	31	51		
			理系入試		前期	8	16	2.0	13	9	1,300			763	9						
			小論文型入試		後期	10	174	17.4	45	15	1,200	954	811	859	10						
			推薦		12	37	3.1	37	12	1,100				12							
			2／3型入試		前期	10	30	3.0	29	15	1,100	812	664	702	13						
		中 学 校 主 免	理系入試	40	前期	10	20	2.0	19	12	1,300				786	11		29	15	44	
			小論文型入試		後期	5	74	14.8	28	8	1,200				892	8					
			音楽		AO	2	2	1.0	2	2	1,300				2						
			美術		AO	2	4	2.0	4	2	1,300				2						
			保健体育		AO	4	7	1.8	7	4	1,300				4						
			技術		推薦	2	2	1.0	2	2	200				2						
			家庭		AO	2	1	0.5	1	1	1,300				1						
			英語		AO	2	0	0.0	0	0	1,300				0						
			技術以外の教科		推薦	1	2	2.0	2	1	200				1						
			教職実践基礎コース		前期	5	32	6.4	31	7	1,100			686	5						8
		推薦	5	19	3.8	19	5	200				5									
		発達支援 教育コース	子ども理解専攻	10	前期	7	44	6.3	38	8	1,400				908	7		2	8	10	
					推薦	3	15	5.0	15	3	1,300				3						
				特別支援教育専攻	10	前期	7	31	4.4	28	8	1,400				794	8		3	8	11
		推薦	3			13	4.3	13	3	200				3							
		小計（教育学部）				120	前期	67	260	3.9	229	82					73		62	64	126
							後期	15	248	16.5	73	23					18				
							推薦	26	88	3.4	88	26					26				
							AO	12	14	1.2	14	9					9				
医学部		医学科		110	前期	50	393	7.9	256	67	1,500	1,254	1,124	1,160	66		63	47	110		
					後期	20	364	18.2	68	20	1,200	1,053	994	1,012	20						
					推薦	40	105	2.6	105	24	900				24						
		看護学科		60	前期	35	113	3.2	108	36	1,100	885	750	794	35		2	58	60		
					後期	10	166	16.6	55	14	1,100				774					10	
					推薦	15	56	3.7	56	15	200				15						
		小計（医学部）			170	前期	85	506	6.0	364	103					101		65	105	170	
						後期	30	530	17.7	123	34					30					
						推薦	55	161	2.9	161	39					39					
						AO	34	75	2.2	71	42	1,500	1,019	851	913	34					
工学部		環境応用化学科		58	後期	12	174	14.5	62	23	1,200	951	799	858	13		40	18	58		
					推薦	12	13	1.1	13	11	500				11						
					前期	33	72	2.2	66	36	1,500	1,028	827	892	35						
		社会環境システム工学科		53	後期	10	201	20.1	75	15	1,200	884	810	840	10		51	4	55		
					推薦	10	22	2.2	22	10	500				10						
					前期	29	68	2.3	66	31	1,500	955	841	887	29						
		環境ロボティクス学科		49	後期	10	108	10.8	38	18	1,200	939	769	811	10	1	47	3	50		
					推薦	10	25	2.5	25	10	500				10						
					前期	32	100	3.1	94	36	1,500	1,006	880	919	32						
		機械設計システム工学科		54	後期	11	235	21.4	63	16	1,200	869	782	806	11		51	3	54		
					推薦	11	22	2.0	22	11	500				11						
					前期	31	69	2.2	64	39	1,500	1,117	816	894	31						
		電子物理工学科		53	後期	10	164	16.4	57	23	1,200	913	761	821	14	1	51	3	54		
					推薦	12	17	1.4	17	8	500				8						
					前期	29	48	1.7	42	33	1,500	1,000	817	860	29						
		電気システム工学科		49	後期	10	147	14.7	51	17	1,200	890	769	816	10		48	1	49		
推薦	10				14	1.4	14	10	500				10								
前期	32				90	2.8	78	38	1,500	1,022	859	919	32								
情報システム工学科		54	後期	11	236	21.5	79	17	1,200	942	793	841	11	2	51	5	56				
			推薦	11	21	1.9	21	11	500				11								
			前期	220	522	2.4	481	255					222								
小計（工学部）			370	後期	74	1,265	17.1	425	129					79	4	339	37	376			
				推薦	76	134	1.8	134	71					71							
				前期	28	71	2.5	69	32	1,100	883	692	745	30							
				後期	14	126	9.0	37	19	1,200	971	746	825	12							
農学部		植物生産環境科学科		52	推薦	10	33	3.3	33	10	400				10	2	24	30	54		
					前期	31	76	2.5	72	33	1,200	879	720	774	31						
					後期	11	123	11.2	49	14	1,400				931					11	
		森林緑地環境科学科		52	推薦	10	14	1.4	14	9	400				9	4	38	17	55		
					前期	34	92	2.7	90	39	1,050	839	698	741	32						
					後期	12	93	7.8	44	24	1,350	1,111	976	1,025	12						
		応用生物科学科		57	推薦	11	17	1.5	17	11	300				11	2	34	23	57		
					前期	18	40	2.2	40	19	800	579	496	529	17						
					後期	11	78	7.1	37	15	1,200	960	749	827	11						
		海洋生物環境学科		33	推薦	4	7	1.8	7	3	400				3	2	17	16	33		
					前期	36	93	2.6	92	39	1,100	875	691	733	37						
					後期	15	133	8.9	51	18	1,200	912	741	807	15						
		畜産草地科学科		61	推薦	10	27	2.7	27	10	300				10	1	18	45	63		
					前期	20	118	5.9	108	22	1,300	1,135	1,041	1,077	22						
後期	10				186	18.6	106	10	1,200				1,033	10							
獣医学科		30	前期	167	490	2.9	471	184					169		11	144	150	294			
			後期	73	739	10.1	324	100					71								
			推薦	45	98	2.2	98	43					43								
小計（農学部）			285	前期	55	112	2.0	104	62	1,200	891	651	718	58		52	46	98			
				後期	20	174	8.7	63	29	1,200	914	725	781	25							
				推薦	15	46	3.1	46	15	300				15							
				AO	55	112	2.0	104	62					58							
創域資源学部	地域資源創成学科		90	後期	20	174	8.7	63	29					25		52	46	98			
				推薦	15	46	3.1	46	15					15							
				前期	55	112	2.0	104	62					58							
				後期	20	174	8.7	63	29					25							
				推薦	15	46	3.1	46	15					15							
小計（地域資源創成学部）			90	前期	594	1,890	3.2	1,649	686					623	15	662	402	1,064			
				後期	212	2,956	13.9	1,008	315					223							
				推薦	217	527	2.4	527	194					194							
				AO	12	14	1.2	14	9					9							
				合計	1,035	5,387	5.2	3,198	1,204					1,049							

宮崎大学位置図



交通案内

J R

宮崎駅 — 南宮崎駅 — (約5分) — 宮崎空港駅 — (約15分) — ①木花駅
 (約10分) — ②③清武駅

※南宮崎駅の上段()書は、
宮崎空港駅からの、木花駅及び
清武駅の上段()書は、南
宮崎駅からの所要時間を示す。

- ①木花駅下車→バス停「木花」利用(徒歩10分)→木花経由811番線→宮崎大学(約10分)
→大学病院前(約15分)
- ②清武駅下車→バス停「清武総合支所前」利用(徒歩10分)→
 清武経由832番線→大学病院前(約10分)
 →宮崎大学(約15分)
 まなび野経由822番線→大学病院前(約10分)
 →宮崎大学(約15分)
- ③清武駅下車→バス停「清武駅前」利用(徒歩5分)→清武経由832番線→大学病院前(約10分)→宮崎大学(約15分)

バス

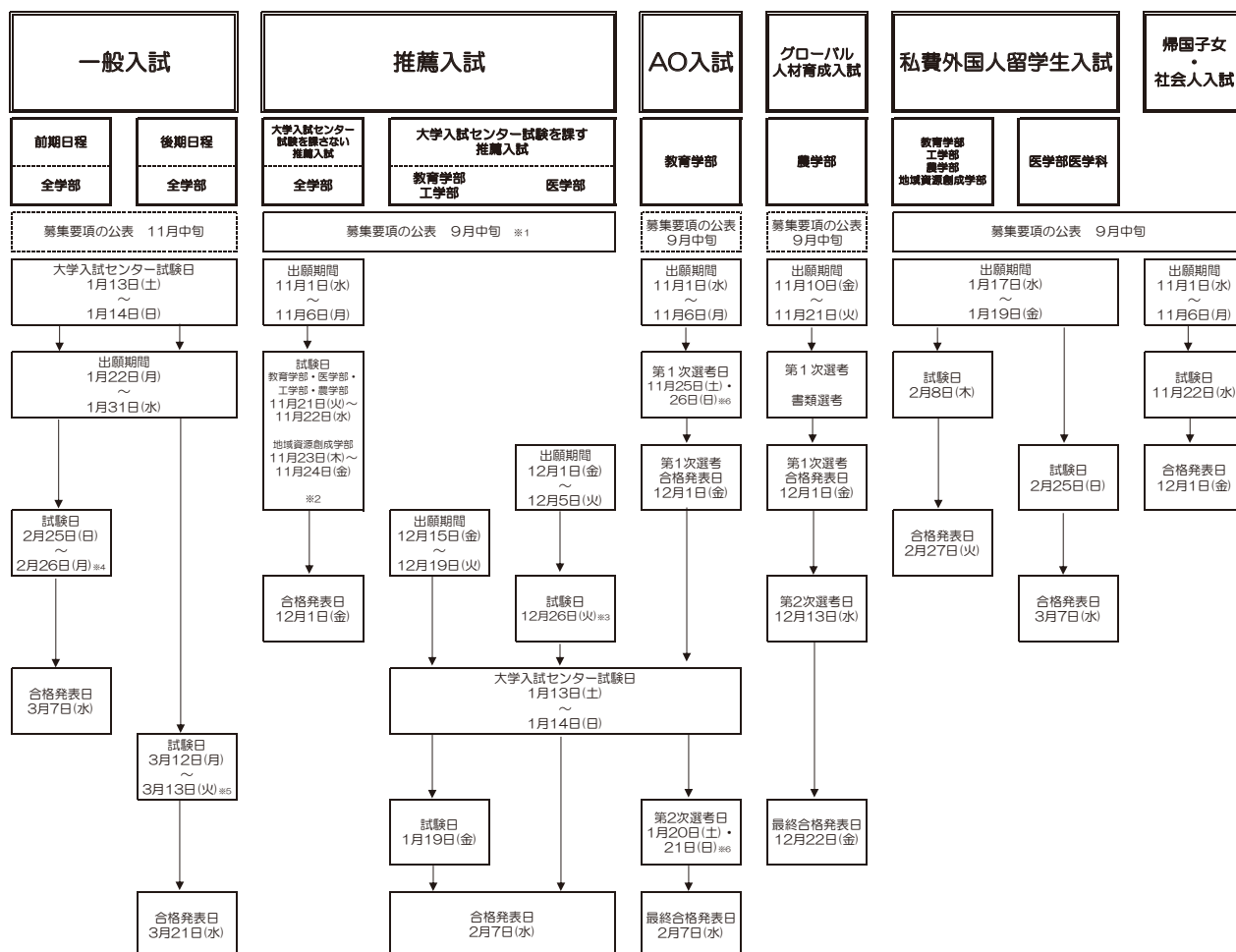
- ①木花台経由(宮崎交通811番線)
宮崎駅バスセンター—宮交シティ—国富小前—木花—宮崎大学(約40分)—大学病院前(約45分)
- ②まなび野経由(宮崎交通822番線)
宮崎駅バスセンター—宮交シティ—農高前—県立看護大学—清武総合支所前—大学病院前(約45分)
—宮崎大学(約50分)
- ③清武経由(宮崎交通832番線)
宮崎駅バスセンター—宮交シティ—産経大入口—加納小入口—清武総合支所前—大学病院前(約40分)
—宮崎大学(約45分)

※医学部試験場で受験する人は「大学病院前」下車となります。

タクシー

J R 宮崎駅から	約35分	J R 南宮崎駅から	約25分
J R 木花駅から	約10分	J R 清武駅から	約15分
宮崎空港から	約20分		

入学者選抜試験日程（平成29年11月～平成30年3月）



※1 推薦入試、医学部医学科地域枠・地域特別枠推薦入試の募集要項はそれぞれ別冊子です。

※2 推薦入試（大学入試センター試験を課さない）については、受験者数によっては11月21日または11月23日の1日で終了する場合があります。

※3 医学部医学科地域枠・地域特別枠推薦入試については第2次選考日です。

※4 教育学部学校教育課程発達支援教育専攻（子ども理解専攻及び特別支援教育専攻）及び医学部のみ2月25・26日の2日間実施。ただし、教育学部学校教育課程発達支援教育コース及び医学部看護学科は、受験者数によっては2月25日の1日で終了する場合があります。

※6 医学部の3月12・13日の2日間実施。ただし、受験者数によっては3月12日の1日

※5 医学部のみ3月12・13日の2日間実施。ただし、受験者数によっては3月12日の1日で終了する場合があります。
 ※6 教育学部のAO入試は、出席状況により試験日が確定します。いずれかの1日、又は2日間での実施となります。

※6 教育学部のAO入試は、出願状況により試験日が確定します。いずれかの1日、又は2日間での実施となります。

宮崎大学の入試に関するお問い合わせは

T 889-2192

宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学学生支援部入試課

電話 0985-58-7977

ホームページ <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>